

聽訟指令續篇

近藤圭造編輯  
明治八年分

二

27  
3  
035

共  
十四本

東 京 圖 書 館	
新 門	一 一 一
部	一 一
類	一 一 一
架	二
面	一
號	一 一 〇 五





CZ  
3  
035



聽訟指令續編目錄

成規之部

第二卷

- 第一 連累人等呼出之後違方ノ事
- 第二 檢事派出探索ノ事
- 第三 負債者失踪後出訴期限ノ事
- 第四 違詰式二罪俱發ノ事
- 第五 鳥獸獵規則中削除伺ノ事
- 第六 民事事伺書部分ノ事
- 第七 証券印税ニ付伺ノ事
- 第八 贖金等計算ノ事

明治九年圖書寮奉付

初丁



- 第九 選舉試檢方ノ事
- 第十 民刑表雛形ノ事
- 第十一 戸長等罪犯取扱ヒノ事
- 第十二 年月日畧記証書ノ事
- 第十三 有位ノ者取扱ノ事
- 第十四 犯人笞杖實決用不用ノ事
- 第十五 裁判傍聽規則ノ事
- 第十六 証券印稅增加ノ事
- 第十七 身代限無願質地處分ノ事
- 第十八 犯罪酌量五等減ノ事
- 第十九 贓金等贗造紙幣ノ事

- 第二十 罪囚再犯ノ事
  - 第二十一 雜稅御廢シニ付伺ノ事
  - 第二十二 連印証書ノ事
  - 第二十三 他縣於テ捕縛ノ事
  - 第二十四 外國人ニ對スル訴訟ノ事
  - 第二十五 司法省章程中伺ノ事
  - 第二十六 制令式區分ノ事
- 程則之部
- 第一 戸長ニ對スル小前訴ノ事
  - 第二 委任狀ニ付伺ノ事
  - 第三 雇人稅金ノ事

廿三丁ノ



- 第四 遲参不参ノ事
- 第五 死囚出願ノ事
- 第六 囚罪諸件
- 第七 被告連名ノ事
- 第八 犯罪私和ノ事
- 第九 警察規則附録伺ノ事
- 第十 訴訟云々ノ事
- 第十一 始審終審ノ事
- 第十二 身代限後家督ノ事
- 第十三 邏卒等ヲ毆ツノ罰改定ノ事
- 第十四 賣渡シ地所等差違ノ事

- 第十五 年金ノ事
- 第十六 租税金延納加利息ノ事
- 第十七 身代限配當順序ノ事
- 第十八 裁判改正ノ事
- 第十九 呼出シ人旅費ノ事
- 第二十 違則ノ事
- 第二十一 闘毆私和ノ後訴ノ事
- 第二十二 被告病氣代言ノ事
- 第二十三 出願証告ノ事
- 第二十四 社寺境内地面ノ事
- 第二十五 暫ク舊章ニ據ル事



各贓之部

四十五丁ノ

- 第一 贓物ヲ以テ抵償ノ事
- 第二 無願ニ代米ノ事
- 第三 贗造知情ノ買取ノ事
- 第四 各贓諸件
- 第五 贓金兩替ノ事
- 第六 盜贓賣德ノ事
- 第七 贓金各別ノ事
- 第八 盜贓估計ノ事
- 第九 甲乙丙騎騙ノ事
- 第十 荷物詐取ノ事

- 第十一 拒捕人ヲ傷スルノ事
- 第十二 贓罪問合セノ事
- 第十三 賭博ニ準スル事
- 第十四 盜贓ノ事
- 第十五 贓罪ノ事

六十三丁ノ

- 逃亡之部
- 第一 舉家失踪ノ事
- 第二 捕獲人逃亡ニ係ルノ事
- 遺失之部
- 第一 官ニ告ケス遺失物給付ノ事
- 第二 稅居中贓物ヲ見出ス事

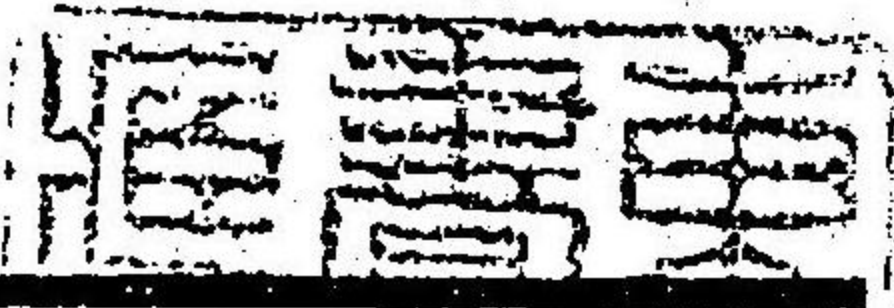
六十六丁ノ



第三 實印代押ノ事

第四 換易ノ賍物ノ事

第五 郵便物ノ事



續編卷二 明治八年分

三河 近藤圭造 編集

連累人等  
呼出後達

第一

連累人等呼出シ後達方ノ事

日誌第六号司法省第一号達書  
明治八年一月十日

連累人並証人等呼出シ後、達方書式、左ノ通相定候條、此旨相達候事、

連累及不審ノ見込ヲ以テ呼出シ、推問ヲ遂久追テ無罪ニ歸シ、及ヒ不審相晴レ候節ハ、  
其方儀何々一件ニ付、相糺候處、不束ノ筋或ハ不筋無之ニ付、無構候事、



証人等呼出、尋問ノ上、始末書為差出、即時事情相分リ、以後尋問スヘキ庶無之分ハ、直チニ御用濟ノ段申達、其餘一件落着迄、御用濟不相分ハ、其方儀、何々一件ニ付相尋候處、御用相濟ニ候條、其旨可相心得事、

第貳

檢事派出探索ノ事

同第九号司法省伺書 八年一月十七日御指令

先般派出檢事被發、司法警察事務、地方官ハ御委任相成候處、罪犯ノ事由ニ依リ、當省檢事局ヨリ、直チニ派出探索不致候テハ、事情明了難相成場合ニ有之付テハ、官吏派出ノ上、萬一不都合ノ筋ニ候テハ、不相成候間、兼テ其旨各地方ハ一般御達相成置候様致度、則御達案<sub>之</sub>相添、此段相伺候也、

檢事派出

御指令

同ノ趣第九號ヲ以テ相違候事

第九號御達 司法警察事務、當分使府縣ハ委任候旨、明治七年十月第百三拾貳號ヲ以テ相違置候處、罪犯ノ都合ニヨリ、司法省檢事局ヨリ、直チニ派出地方警察官吏ハ、致指揮候儀ニ可有之候條、不都合無之様可取計、此旨為心得相違候事、一月十五日

第三

負債者失踪後出訴期限ノ事

同第十三号司法省伺書 八年一月二十三日御指令

負債者失踪後ノ出訴ハ、裁判上ノ習慣不採上ノ規則ニ有之候處、明治六年第三百六拾貳號御布告、金穀貸借ノ始トシ、物品賣買、其他種々ノ取引ニ至、迄、互ニ受取渡シノ期限ノ條約

失踪後出訴期限



ヲ破リタルヨリ、裁判所ノ裁判ヲ乞フニ至ル時、其種類ニ因  
 リテ、夫々出訴ノ期限ヲ被定候付テハ、其各種類ノ出訴期限  
 將ニ盡ントスルノ際ニ望ミ、負債者失踪スル時ハ、債主ニ於  
 テハ、出訴ヲナサント欲スレ共得可ラス、然リ此期限過去レ  
 ハ、訴出ルノ權ヲ失ヒ候事ニ相成、債主ノ迷惑不測候ニ付、自  
 今右失踪後ノ出訴不採上ノ規則ヲ改正シ、若シ負債者失踪  
 後出訴ニ及フ時ハ、裁判所ニ於テ一應訴狀ヲ取上ケ、失踪ノ  
 年月日ヲ説明シ、債主所持ノ証書ニ年月日失踪ノ旨ヲ裏書  
 シテ更ニ訴狀ト共ニ下付シ、追テ本人見當ルカ、又ハ三十六  
 箇月ノ後、其裏書証書ヲ以テ、跡相續ヲ為ス可キ者ニ對シ、訴  
 出ル迄ノ時間ハ、出訴期限ノ限内ニ加算致サ、ル方、至當ニ

可有之ト存候間、其趣至急御布告相成候様致シ度、別紙御布  
 告<sup>之</sup>相添、此段相伺候也、

御指令

伺ノ趣、第六號ヲ以テ、布告候事、

第六號御布告 民法裁判上、負債者失踪後ノ訴訟ハ、失踪

後三十六ヶ月ノ時間ハ、採上ケサル成例ニ有之候處、本年

三月一日ヨリ以後ハ、左ノ通相改メ候條、此旨布告候事、一

日廿

第一條

債主定約期限未滿内ニ、負債者ノ失踪ヲ知ル時ハ、定約

滿斯ニ至リ、直ニ裁判所へ訴出ツ可キ事、



第二條

債主未タ負債者ノ失踪ヲ知ラス、定約満期、又ハ出訴期限將ニ盡ントスルヲ以テ、裁判所へ出訴シ、裁判所ノ奥書ヲ以テ、負債者ニ掛合、始テソノ失踪ノ事ヲ知ル時ハ、右奥書訴狀ヲ再呈シ、其旨届出ツ可キ事、

第三條

前條ノ場合、裁判所ニ於テハ、一應訴狀採上ケ、直ニ失踪者所管ノ戸長へ申付、失踪ノ年月日ヲ訊明シタル上、債主差出シタル証書ニ、負債者何年何月何日家出ノ末、行衛相分ヲサルニ付、追テ本人見當ルカ、又ハ三十六ケ月ノ満月後、跡相續ヲ為ス可キ者ニ掛リ、此裏書証書ヲ

以テ、再訴致ス可キ旨ヲ記載シ、訴狀下戻ス可キ事、

第四條

債主於テ、前條ノ裏書証書ヲ受取置キタル上ハ、本人見當リ、又ハ搜索<sup>ササ</sup>三十六ケ月ノ時限ハ、明治六年<sup>十一月</sup>第三百六拾二號布告出訴期限ノ限内ニハ、加算致サ、ル事、

第四

違註式二罪俱發ノ事

同上警視廳同書  
八年一月二十四日指令

違式犯罪ノ者、二罪以上俱發候節ハ、本律二罪俱發ノ例ヲ以テ、處分致、來候處、元來違註條例ノ儀ハ、律外一種ノ罰則ト見做候時ハ、二罪以上俱發ノ者モ、各別ニ論シ候方、相當ニ可有之評議致シ候、右ハ如何處分候テ至當ニ可有之哉、此段相伺候也、

違註二罪  
俱發



指令

違註犯罪ノ者、二罪以上俱發スル時ハ、各自ニ科ス可シ、七年  
十号十四丁白川 但シ改定律例第二百八十八條ハ、此限ニア  
縣同第三條見合  
ラズ、

第五

鳥獸獵規則中削除同ノ事

同第十七号司法省同書  
八年一月二十八日御指令

明治七年第百二十二號御布告改正鳥獸獵規則第十六條、若  
シ無カニシテ罰金ヲ出スル能ハサル者ハ、懲役法ニ依ル可  
シト有之候所、右罰金ヲ懲役日數ニ算シ、改定律例贖罪例ニ  
照準シ、七十五錢ヲ懲役一十日、拾五圓ヲ同一年ノ法ニ依リ  
折算スレハ、自然零金ヲ生シ、其方法難相立且、又鳥獸獵規則  
ノ三、無カノ者ハ懲役法ニ依リ、處分シ候テハ、他諸罰則ノ比

鳥獸獵規則削除

例ニ於テ、不都合ノ儀モ有之候ニ付、右第十六條削除致シ、尤  
無カノ者有之節ハ、他諸罰則同様身代限ノ處分ニ止マリ候  
様仕度、此段相伺候也、

御指令

伺ノ趣第九號ヲ以テ布告候事、

第九號御布告 明治七年 十一月 第一百二十二號布告改正鳥

獸獵規則中第十六條、削除候條此旨布告候事、一月廿九日

第六

民刑事伺書部分ノ事

同第十七号司法省第二号各裁判所各府廳(達書  
八年一月三十一日)

聽訟事件、伺書認方並擬律諸罰則聽訟事件混淆致サ、ル様  
明治六年第四十八號、及ヒ明治七年第六號ヲ以テ相違置キ  
候處、今以テ往々聽訟事件ノ多岐ニ涉レルヲ、一條中ニ合載

伺書部分



シ、或ハ民事刑事ヲ混淆シテ伺出候向モ之レアリ、夫レカ為  
メ各課ノ調方、不都合ナル而已ナラス、自然事理ノ錯亂ヲモ  
生シ候儀ニ付、以來必ス右兩度ノ違ニ基ツキ、各別紙ニ認メ、  
其事件ニ隨ヒ、聽訟ニ付伺、擬律ニ付伺、罰則ニ付伺ト、一々標  
題ヲ設ケ伺出ツ可ク候條、此旨相違候事、  
但シ實際ノ手續、口書ヲ以テ伺出ル分ハ、民刑ヲ記別スル  
ノ外、條目等ハ適宜ニ致シ苦シカラス候事、

印税伺

第七 證券印税ニ付伺ノ事  
同第十八号司法省伺書  
八年二月三日御指令  
證券印税規則第五則中へ追加ノ儀、先般相伺候ニ付、第三百  
十七號ヲ以、御布告相成候所、右ハ人民習慣ノ為メ、施行期限  
ノ猶豫ヲ與ヘラレ候様致度、依之別紙御布告案之相添、此段

更ニ相伺候也、

御指令

伺ノ通、第十一號ヲ以テ、布告候事、  
第拾一號御布告 明治七年十二月 第三百三拾七號布告、證券  
印税規則第五則中、追加ノ儀ハ、明治八年四月一日ヨリ施  
行候條、此旨更ニ布告候事、二月  
二日

第八 贖金等計算ノ事  
同第二十一号司法省第三号各裁判所達書  
八年二月九日

贖金等  
計算法

贖罪收贖金、贓物賣拂金、贓金、科料、罰金等、上納記内譯帳製調  
方釐位以下、四捨五入ノ法ヲ用ヒ、或ハ毛絲以下迄ニ組込候  
向有之、一定不致ニ付、計算上差支ノ廉不鈔候條、右ハ壬申第  
三百六十三號公布計算出納規則ニ據リ、一廉限リ、釐以下四



捨五入ヲ以帳簿ヲ製シ、毛以下ノ出目錢ハ不足ヲ生スル節、仕埋メ可致候、但上納記内譯帳ハ、今後正副指出スニ不及、正帳一本可差出候、此段相達候事、

第九 選舉試檢方ノ事 同第二十二号司法省第三号各裁判所へ達書 八年二月十二日

省員選舉ノ儀ニ付、今般別紙ノ通試檢方取設ケ候ニ付、以来各裁判所ニ於テ、欠員等有之、選舉申立候節ハ、右方法ニ照シ、試檢狀相添可差出候條、此旨相達置候事、

別紙

第一條 凡ソ人ヲ舉ケ、官ニ任セントスルニハ、先ツソノ撰狀ニ就テ、之レヲ檢シ、然ル後ニ其人ヲ出タシ、首ニ其志ノ在ル所口ヲ問フ、志サス所口、既ニ明カニシテ、乃チ其技ノ至ル

所口、何如シテ試ム、

第二條 其志サシ果シテ聽訟ニ在ル者ハ、即チ本課ニツヒテ、其既ニ落着セシ所口ノ一事ト、他ノ例案トヲ取リテ、之レヲ示シ、之レカ裁案ヲ作ラシメ、其志サシ果シテ斷獄ニ在ル者ハ亦タ本課ニ就ヒテ、其既往ノ一件ト、他ノ例案トヲ取リテ、之レカ斷案ヲ擬セシム、其或ハ斷刑ニ於ケル、明法ニ於ケル、書記及會計等ニ於ケル、亦之レニ準ス、之レヲ要スルニ實際ニ就テ、其能否ヲ試ミ、其果シテ志サス所ニ背カサルヤ否ヲ檢スルニアリ、

第三條 試檢必ス程限アリ、其試ムル所ノ難易ニ隨ヒ、預シメ之レカ程限ヲ命ス、或ハ一時間ヲ以テスルアリ、或ハ二時



民刑表  
雜形

間ヲ以テスルアリ、其程限ヲ過ル者ハ、斥ソケテ取ラス、  
第四條 試檢必ス別席アリ、程限中苟クモ他人ニ接スルヲ  
許サス、苟クモ他席ニ即クテ許サス、

第拾 民刑表雜形ノ事  
同第二十三号司法省第二号各裁判所へ達書  
八年二月八日

行刑表、聽訟日々表、同取扱件數書半箇年分取纏メ、指出可申  
旨、明治六年當省第百五十六號ヲ以テ相達置候處、本年分ヨリ、  
自一月三月迄、自四月六月迄、自七月九月迄、自十月十二月迄、  
三箇月分宛取纏、本副二通、翌月十日限リ、各地差立、當省へ差  
出可申、其節別紙兩通雜形ノ通り件數等取調、是亦本副二通  
相添、差出可申、此旨相達候事、

但聽訟日々表記載方、區々ノ取計ト相見へ、不都合ニ候條、

向後聽訟表釋例ニ照準シ、混淆違算無之様、取調可申、且今  
般相達候刑事件數等取調書記載人員ハ、全ク犯罪人ト見  
做候以上ノ者ニテ、證人引合等ニ付呼出候者ハ、算入不致  
儀ト相心得可申事、

別雜形

明治何年 從何月 取扱刑事取調書  
至何月

印 某裁判所 區裁判所ノ分ハ其所轄ノ  
裁判所長ノ印ヲ押スヘ

取扱總數之部

- 一 取扱總件數 何千何百何十何件
- 一 同總人員 何千何百何十何人

内譯



何月ヨリ件數越高

何百何十何件

從何月新規件數

何百何十何件

何月ヨリ人員越高

何百何十何人

從何月新規人員

何百何十何人

處分濟之部

一處分濟總件數

何百何十何件

一同總人員

何百何十何人

內譯

何裁判所或ハ陸海軍引渡件數 何十何件

犯罪人病死ニ付消點件數 何件

手限處分濟件數 何十何件

伺ノ上處分件數 何十何件

何裁判所或ハ陸海軍引渡人員 何十何人

吟味ノ上不審筋無ニ付無構人員 何人

吟味中病死人員 何人

手限處分濟人員 何百何十何人

伺ノ上處分濟人員 何十何人

未決之部

一未決總件數 何百何十何件

一同總人員 何百何十何人

內譯

取調中件數 何百何十何件



司法省へ伺中件數

何十何件

何々ノ儀有之未濟件數何件婦女懷孕ニ付處斷見合等ノ類

取調中人員 何百何十何人

司法省へ伺中人員 何十何人

何々ノ儀有之未濟人員 何人

右之内

外國人交渉件數 何件

同人員 何人

内

處分濟 何件

未濟 何件

處分濟 何人

未濟 何人

前書之通無相違候也

但區裁判所分何冊別ニ添之區裁判所有之向ハ如是但書ニ致之區裁判所取扱件數書

ハ此離形ニ準シ取調其所轄ハ裁判所ヨリ指出ヘシ

某裁判所長

年號月日

官名苗名

明治何年從何月取扱民事取調書

至何月印某裁判所區裁判所ノ分ハ其所轄ノ裁判所長ノ印ヲ押マヘシ

一何月ヨリ越高件數 何百何十何件



一何月ヨリ何月ニ至リ新訴件數何百何十何件  
合何千何百何十何件

内

何月ヨリ何月ニ至リ結局件數 何百何十何件

内譯 別紙取扱件數書之通 從前差出來候取  
扱件數書ヲサス

殘

未結件數 何百何十何件

内譯 別紙取扱件數書之通

右之通取調差出候也

某裁判所長

官名苗名

年號月日

戸長等  
犯罪

第拾壹

戸長等罪犯取扱ノ事

同第二十七号司法省伺書  
八年二月二十三日御指令

各府縣戸長等、等外吏ニ準スル外、管内取締、或ハ仕丁等ノ名  
目ヲ以テ、地方ノ適宜ニ任スル者、公私罪ヲ犯セハ、各本籍ヲ  
以テ處分致シ來候處、本年六月二日第七十二號御達書三拾  
圓以下、等外吏ニ準シ處分候旨有之候ハ、地方ニ任スル五  
圓以下ノ者ト雖モ、等外ニ准スル儀ニ有之、然ル處各縣伺ノ  
内、適宜ニ任スル者ハ素ヨリ貧人ニシテ數口ノ寵ヲ僅ニ立  
ル丈ノ者、平民贖ノ輕キニ依ル可キ者ニテ、公務ノ端末ニ居  
ルヲ以テ、一倍ナル等外吏贖例ニ依ルハ、難溢ニ付憫然ノ趣  
伺出候縣々モ有之、且、等外月給ハ五圓以上、十圓ヨリ上ラズ、  
御雇御用掛等ノ者ニ比例シ、諸縣一般ニ金額ヲ以テ、等外ノ



准格難相定候、律上ニ於テ贖金ノミナラス、鬪毆罵詈等加等ノ例ニモ致關涉候ニ付、戸長副長ヲ除クノ外、地方ノ適宜ニ任スル者ハ、總テ本籍ヲ以テ論レ候様致度、別紙條例ヲ起シ、公布案相添此段相伺候也、

御指令

伺ノ趣第三拾壹號ヲ以テ布告候事、

第三拾壹號御布告 等外吏ニ準スル者、犯罪條例左ノ通

相定候條、此旨布告候事、二月廿二日

條例

凡等外吏ニ準スル者、戸長ヲ除クノ外、罪ヲ犯スニ、俸給等外四等ノ金額ニ及ハサル者、及ヒ日雇ノ者ハ、並ニ本

籍ヲ以テ論ス、

第拾貳 年月日畧記證書ノ事 同第三十号司法省甲第一号布達 八年二月二十七日

年月日畧記

明治六年第二百十二號ヲ以テ、年月日ノ内何レニテモ畧記シタル諸證書類、及ヒ公私文書等ハ裁判上證據ニ不相立旨布告相成候ハ、其證書全ク証據ニ相立サル義ニハ之レナク、只其年月日ノ早晚ヲ定ムルキ證據ニ相立タル儀ニ候條、右等ノ證書ヲ以テ、年月日ノ早晚ニ掬ハラヌ、其記入ノ事件ニ付訴訟ニ及フキハ、取揚ケ裁判ニ及フヘク候條、此旨布達候事、

第拾三 有位ノ者取扱ノ事 同第四十号司法省伺書 八年三月十四日御指令

有位取扱

位階勅奏判授區別ノ儀、己巳七月中御達有之候ニ付、有位ノ



輩六位以上ハ、委任官ニ準シ、七位以下ハ判任官ニ準シ、取扱可申候哉、又ハ其後官位相當被發候ニ付テハ、位階ノ區別モ相替リ候儀ニ有之候哉、有位非職ノ輩、有位ノ判任官又ハ有位ノ華士族、有位ノ平民等、位階ノ等差ニヨリ、夫々取扱方區別ニ有之候哉、詳細相心得申度、此段相伺候也、

御指令

伺ノ趣、從四位以上勅授、從九位以上奏授、初位判授ト可相心得且、有位非役ノ輩、四位以上勅任ニ準シ、從九位以上ハ、奏任ニ準シ、初位ハ判任ニ準シ、取扱可申事、

第拾四

犯人答杖實決用不用ノ事、懲役百日以下犯人、總テ服役致シ、答杖實決不相用候向ハ、別

同第四十九号司法省第七号、東院府縣ハ違書八年三月二十七日

答杖實決

紙書式ニ準シ、此違書着十日限取調、當省ハ指出可申、于今答杖實決相用候向ハ、其旨同期限可申出候、此旨相違候事、但當時答杖相用居候向、後日相止メ、又ハ當時不相用候テ、毛臨時相用候節ハ、其旨可届出事、

紙別用紙常用界紙

答杖實決不相用候ニ付御届書

一當縣ニ於テハ、懲役百日以下ニ該ル犯人、何年何月何日ヨリ、總テ服役致シ、答杖實決不相用候、左ノ稾書ノ類有之候ハ、但書ニス可シ、但某支廳ニ於テハ、何々ノ譯有之、于今答杖實決為相用候、

德心精吟

續編卷之三



又ハ本文ノ通、笞杖不相用候處、何年何月何日、何一件處  
刑ノ節ニ限リ、何々ノ譯ヲ以暴動一件一時多人、臨時笞  
杖實決相用候  
右ノ通候也、

年月日 官苗字名印

司法卿宛

第拾五 裁判傍聽規則ノ事 同第五十一号司法省甲第二号布達  
八年四月四日

本年第三十號御布告ニ付テハ、左ノ通各裁判所傍聽規則相

定候條、此旨布達候事、

一傍聽センコトヲ願フモノハ、裁判所庶務課へ名刺住所ヲ

出シ、其許可ヲ得テ後、訟庭ニ出ツヘキ事、

裁判傍聽

但シ當日訟庭ノ都合ニヨリ、其數ヲ減省シ、又ハ一同差  
許サ、ルモ之レアル可シ、

一傍聽人、訟庭ニ就クノ心得ハ、七年甲十九號當省達第八條  
并ニ但書ノ通リタルヘキ事、

第拾六 證券印稅增加ノ事 同第五十六号司法省伺書  
八年四月十日御指令

印稅

明治七年第八十一號御布告證券印稅規則中、遺漏ノ廉有之、  
其事件ハ右規則ノ權衡ニ於テ、免ス可カラサルモノニ有之  
候へ共、明文無之ニ付、處罰ニ及ヒ難ク、現今其所為ニ付、伺出  
ノ向モ有之裁判上差支候間、大藏省へモ打合セ、別紙畧ノ通  
改正増補取調候ニ付、御施行相成候様致度、御布告案畧之相添  
此段相伺候也、



御指令

伺ノ趣第五十一號ヲ以テ布告候事

第五十一號御布告 明治七年七月第八十壹號布告證券印

稅規則第四則中、左ノ通改正增加候條、此旨布告候事四月十日

證券印稅規則

第四則 賞罰例

第七條改正

一 諸證書帳簿ニ、證券印紙ヲ不足ニ貼用セシ者ハ、其減稅高ノ拾倍、其證書受取タル者ハ、減稅高五倍ノ過料タルヘキ事、

第八條但書增加

但其調印セサル證書ヲ受取タル者ハ、渡主ニ科スル半高ノ科料タルヘキ事、

第十五條增加

一 證券印紙貼用スヘキヲ、界紙ニ認メ渡ス者ハ、減稅高ノ拾倍、其證書受取タル者ハ、減稅高五倍ノ過料タルヘキ事、

第拾七

身代限無願質地处分ノ事

同上同省伺  
同年同月日御指令

質地处分

聽訟上身體限ノ處分ヲ為ス時ハ、六十日間ノ揭示ヲ為シ、身代限ニ過ル者ニ對シ、義務ノ請求ヲ為ス可キ者ハ、揭示中訴出ルヲ以テ法トス、若シ揭示中訴出サルニ於テハ、其節ノ分産配當ニハ差加ヘサル筈然ルニ他ノ債主中、地所ノ質入書



入證書ヲ取置キタル者、揭示中訴出サル節、其地所ヲモ共ニ  
身代中ノ糶賣ニ組込マントスレハ、奥書割印帳ニ判然記載  
之アリ、公正ノ證書ヲ所持シタル債主アルト明白ナル上ハ、  
其債主一應ノ承知モナキニ、闇ニ權利ヲ褫奪スル謂レ之レ  
ナク、然リ逆、其地所ヲ殘レ置ントスレハ、身代限ノ規則ニ背  
ク、因テ之ヲ考フルニ彼レ公正ノ證ヲ所持スト雖モ、本人身  
代限ニ遇ニ當リ、所有ノ財産ヲ糶賣スルニ、素ヨリ先取ノ特  
權アルヲ以、其代價中ニテ受取ル可キ金高ヲ請求スルヲ得  
可シト雖モ、糶賣ヲ拒ムノ權ナキハ論ヲ待タス、又官ニ於テ  
ハ、何レノ場合ニテモ保護ヲ為ス可キ趣意ニテ、奥書割印ノ  
規則ヲ設ケ、其帳簿ハ戸長役場ニ備置キ、既ニ其貸入又ハ書

入ノ地所ナルヲ知リナカラ、債主揭示中ニ訴出サル逆、其代  
價ヲ以テ全ク他人ノ辨償ノモニ充ルハ、保護ノ趣意ヲ失フ  
譯ナレハ、貸入又ハ書入ノ地所ハ、其債主訴出サル共、外財産  
一同糶賣ニシテ、其代價中ニテ、貸入又ハ書入ニ取置キタル  
債主ノ受取ル可キ元金高ニ、配當處分ノ日迄ノ利息ノ加ヘ、  
第一番ニ引去リ、之レヲ戸長役場ニ預リ置キ、債主願出次第  
之レヲ渡ス可キトニ致ス時ハ、兩義全クシテ至當ノ處分ニ  
之レアル可ク存候間、別紙ノ通御布告相成候様致シ度仍テ  
御布告案之相添、此段相伺候也、

御指令

伺ノ趣第五十三號ヲ以テ、布告候事、



第五十三號御布告 地所ノ質入書入ハ尋常ノ私約ト違  
 ヒ、戸長役場ノ帳簿ニ記載シテ、與書割印モ之レアル公正  
 ノ證書ニ付、若シ身代限財産中、質入又ハ書入ノ地所アリ  
 テ、其債主揭示中ニ訴出サル節ハ其地所糶賣代價ノ中ニ  
 テ、債主受取ルヘキ元金高ニ、糶賣金配當ノ日迄ノ利息ヲ  
 加ヘ、第一番ニ引去リ、裁判所ニ於テ之ヲ糊封シ、掛リ官員  
 兩名調印ノ上、戸長役場ニ預ケ置キ、後日債主願出次第相  
 渡ス、候條、此旨布告候事、

取調可申事

四月十日

第拾八 犯罪酌量五等減ノ事

同第五十七号断刑課判事ヨリ、本省上申  
八年四月十三日指令

五等減

去ル十二月中第百三十四號ヲ以テ、五等減ノ法公布相成候  
 ニ付、先般過失殺傷収贖モ、貧富及ヒ事情ヲ酌量シ、他ノ斷罪  
 ト同ク五等減ノ法相用度旨及上申置前書候所、其減等ハ尋  
 常犯罪ノ減等法トモ異リ候儀ニ付、左ニ減等ノ法相設度、抑  
 過失殺傷収贖例圖ハ、懲役三十日ヨリ懲役終身ニ至ル迄、九  
 等ニ區分有之候ニ付、右九等ヲ以テ減等ノ準據トナシ、假令  
 ハ懲役終身収贖金四十圓ヨリ五等ヲ酌減セハ、懲役一年収  
 贖金十圓其一年乃四十日等ヨリ、五等ヲ減セハ、既ニ減等ス  
 ハキ例圖無之故、是等ハ悉皆懲役三十日ヲ減等ノ盡ル處ト  
 ナシ、酌減シテ懲役三十日ヨリ輕キ者ハ、總テ不問ニ置キ可  
 然ト相考候間、此段宜敷御評議有之度、依テ及上申候也、



指令

伺ノ通

第拾九 賍金等質造紙幣ノ事

同第五十七号司法省第八号各裁判所各所轄ニ送書  
八年四月十四日

當省、收納相成候賍金等ノ内、質造紙幣有之節、通貨同様  
納付致來候處右ハ於其廳鑑定ノ者質造紙幣ト見認分ハ  
斷截焼却、上其譯書ヲ以、可届出候、此段相違候事、

第貳拾 罪囚再犯ノ事

同第六十一号司法省伺書  
八年四月十八日御指令

懲役終身ノ者、百日以下ノ罪ヲ犯スハ、例第五條ニ照シ、棒鎖  
ニ處分レ來候得共一年以上ノ罪ヲ犯ス者、的例無之、例第  
三百二條逃走スル者ハ、絞ト有之、逃走罪ハ、十年以下ノ者、  
在テハ、棒鎖二日ニ過ス、然ルニ終身ノ者ハ、絞ニ入ルノ法ニ

質造

再犯

有之候、別紙罪案書當府下磯田安次郎儀ハ、同因佐藤米吉謀  
殺ノ造意ニ同意シ行ノテ傷スル者、即チ從ニシテ加功スル  
者ニテ、本罪懲役十年ニ該ル者ニ候ヘハ、逃走罪ノ絞ニ入ル  
ニ比照シ、絞ニ被處可然候哉、仰御裁決度、口書之相添、此段相  
伺候也、

御指令

伺之通

第貳拾壹 雜稅御廢シニ付伺ノ事

同第六十二号司法省伺書  
八年四月十九日御指令

從來雜稅ト稱スル分、本年一月一日ヨリ被相廢候旨、第二十  
三號ヲ以テ御布告相成候ニ付テハ、別紙稅目之ニ掲ケ有之  
分ニテ、是迄雜稅上納ノ者ハ、株式ト心得又ハ專賣免許ヲ得

雜稅



タル等ノ心得ヲ以テ、新規同職業ヲ為ス者ニ對シ、彼是苦情  
ヲ生スルトモ、以來裁判上ニ於テハ、株式又ハ專賣免許等ノ  
申立ハ、其效ナキ者ト見做シ、裁判及ハサル迄、至當ニ可有之  
ト存候、此段相伺候也、

御指令

伺ノ通、但當分地方ニ於テ、改テ、收稅致シ候分ハ、従前ノ通  
可相心得事、

第貳拾貳 連印證書ノ事

同上司法省伺書  
八年四月廿四日御指令

金穀貸借訴訟中、數名連印ノ證書アリ、其証書面各自分借ノ  
金額ヲ記載シタルハ、銘々各紙ヲ以テ借受タルモ同様ナレ  
ハ、其分借高ニ應シ、各自濟方申付ルハ無論ト雖モ、或ハ証書

連印證書

面分借ノ明文ナキ者之レアリ、其連印數名ノ間ニテハ、必  
ス其融通使用スル所ノ額、多少ノ差別之レアル可キモ、圖  
難久、右數名ノ總員相揃ハサレハ、銘々使用ノ額ヲ知ル可  
サレハ、現在借主ノ負フ所ノ義務、果テ幾分ニ止マルヤ決シ  
難キ様ニモ相見、候得共、畢竟金ヲ人ニ借レハ、借ル者ハ返  
ス可キノ義務ヲ負ヒ、貸ス者ハ受取ル可キノ權利ヲ有セリ、  
今証書上分借ノ明文無之上ハ、其証書上ノ金員ハ、共同借受  
ケタル者ナレハ、其辨償ノ義務ニ於テモ、共同員任ス可キハ、  
素ヨリ論スルヲ待ス、而シテ其共同義務ヲ盡スニ於テ、縱令  
各自分借スル所ノ區分アリト雖モ、是レハ借主中ノ相互ノ  
間ニ在ル事ニテ、金主ニ於テ知ル可キ事ニ無之、金主ニ於テ



唯其貸ス所ノ全員ヲ連印中ノ者ヨリ受取ル可キノ權利  
 有シ、借主中ノ紛擾ニ因テ己レノ權利ヲ失フ可キ理ナシ  
 トス、然ルニ數名中、或ハ失踪ノ者等之アルヲ以テ、總額ノ幾  
 分ヲ裁判シテ、之ヲ失踪者ノ負債ニ附シ、直ニ完償ヲ為サ、  
 ル事アリテハ、負債主自ラ盡ス所ノ義務ヲ缺テ、債主ノ有ス  
 ル權利ヲ害シ、徒ラニ他人ニ損害ヲ與ソル譯ニ付、裁判上ニ  
 於テハ、連印中失踪者アル時ハ、現在ノ者へ濟方申付ル習慣  
 ニ候處、未ク公布相成タル事ニ無之故、一般ノ人民承知致サ  
 ルハ勿論、各地方裁判官ニ於テモ、間ニハ各様ノ見込モ有  
 之、自然各所ノ裁判、區々ニ出テ、或ハ奸徒ノ計畧ノ爲メ、良民  
 可憫ノ損害ヲ蒙ル者有之ヤモ計リ難ク、旁不都合ノ儀ニ付、

至急別紙ノ趣ヲ以テ、御布告相成候様致シ度、別紙之相添、此  
 段相伺候也、

御指令

伺ノ通聞届、第六十三號ヲ以テ、布告候事、

第六拾三號御布告 金銀其他借用証書中、借主數名連印

ニテ、各自分借ノ員數ヲ記載セサル分ハ、右連印中、失踪又

ハ死亡シテ、相續人ナキ者等有之トモ、其借用シタル金銀

其他ノ總額ヲ、其連印中現在ノ者へ償却可申付候條、此旨

布告候事、四月廿日

但右証書中、分借ノ員數無之トモ、別ニ分借ノ明証アル

ハ、此限ニアラス、



他縣捕縛

第貳拾三

他縣於テ捕縛ノ事

同第六十三号司法省第九号各裁判所各府縣達書  
八年四月二十二日

犯罪人他ノ府縣ニ於テ捕縛ノ上、受取渡ノ儀、是迄區々相成居候處、以來左ノ通相定候條、此旨相違候事、  
甲ノ裁判所、又ハ縣廳ニ於テ審判ス可キ犯罪人、乙ノ府縣ニ於テ捕縛スル時ハ、甲ノ裁判所、又ハ縣廳ヨリ受取人可差出事、

外國人訴訟

第貳拾四

外國人ニ對スル訴訟ノ事

同第七十二号司法省甲第三号達書  
八年五月五日

內國人ヨリ外國人ヘ係ル民事刑事ノ訴訟手續、左ノ通相定候條、此旨布達候事、  
一 內國人原告ニテ、外國人ニ係ル民事刑事ノ訴訟ハ、原告人其事由ヲ各開港開市場ノ府縣廳ニ申出、其廳ノ添狀ヲ得

章程伺

第貳拾五

司法省章程中伺ノ事

同上司法省伺書  
八年五月九日御指令

テ、被告人管轄ノ各國領事ヘ申訴ス可シ、  
今般御渡相成候當省章程第二條、勅奏官位華族ノ犯罪、國事犯及、内外交渉事件ノ重大ナル者ハ、卿ヨリ檢事ニ指令シ、當然ノ處分ヲ行ハシムルト有之候所、右ハ事ノ大小輕重ニ由リ、卿ノ見込ヲ以テ、何レノ裁判所ヘ付シ、處分セシメ候テモ、不苦儀ト相心得候得共、此段一應相伺候也、

御指令

伺、通、但大審院章程第六條ニ不矛盾様可致候事、



制令式

第貳拾六 制令式區分ノ事

同第三十七号福島縣伺  
八年三月十日指令

雜犯律違令條ニ、制令式ニ違フモノ云々トアリテ、輕重三段ノ別ヲ設ク、夫レ制令式ノ三字何ヲ以テ分界トスルヤ、知ルヘカラス、大抵 詔勅ヲ以テ、下ルモノヲ制、シ、院省使府縣等ヨリ、下布スル所ノ諸公告諸規則等ヲ令トシ、其尤輕者ヲ式トスル、譯ニモ之アルヤト想知セラル、ト雖モ律法上、己ニ三字ノ輕重ヲ設ケラル、ヤ、自ラ何ヲ制トシ、何ヲ令式トスルトノ、判然クモノナキ能ハサル、キ欵、此邊如何處遇可然哉、

指令

詔勅ヲ制トシ、院省ヨリ公布スル所ノ、諸公告ヲ令トシ、府縣

ヨリ下布スル諸規則ヲ、式ト為ス、然レ共、事理重キ者ハ、院省使ノ布令ト雖モ、違制ニ間擬スルヲモ之レアル可シ、必竟寧件ノ輕重ニ依テ、分擬スルヲ要ス、



程則

第一

戸長ニ對スル小前訴ノ事

司法省日誌第六号滋賀縣伺  
八年一月十日指令

訴  
戸長ヲ

村割合金勘定、小前共ヨリ戸長へ相掛候訴採用不採用ノ儀、  
 當六月中、秋田縣ヨリ伺出七年第百二十五号十七可見合セ相成候處、右御指  
 令ニ無證據ノ訴訟ハ、里正ノ存亡ニ關セズ、民法裁判上ニ於  
 テハ、總テ不及受理事ト有之、然ル處右勘定ノ儀ハ、村役場ニ  
 テ戸長自ラ記載シ置候帳簿ノ外、證據ト可為モ、無之右帳  
 簿ハ被告戸長ノ手元ニ有之、元來小前方ニ證據ノ可取様無  
 之、戸長ニ於テ右ヲ倅トシテ、不都合ノ帳簿仕立置候ヲ、無證  
 據ヲ以テ可相手取様無之候テハ、不幸ニシテ狡智姦才ノ戸長  
 ニ遭遇候節ハ、小前ノ權利可伸時無之、隨テ大政府裁判廳ヲ



被置候詮モ無之筋ニ歸レ可申乎ニ候ハ共右ノ如ク固ヨリ  
 證據ノ可取様無之モノト雖モ、無證據ノ訴訟ハ、總テ民法上  
 ニテハ採上間敷筋ニ候哉、然ラハ民法上ニテ不取上候共、斷  
 獄課ニテ取上及吟味可然儀ニ候哉、  
 右同斷、小前共ヨリ不審ノ廉有之ヲ以テ、戸長役場帳簿一覽  
 致度トノ訴ハ、取上可然哉、  
 若シ右ノ訴取上、戸長役場帳簿一覽ノ上、不審ノ廉々ヲ摘出  
 シ、差出レ候節ハ、引負或ハ違算ノ確證ハ無之候共、證據ノ端  
 緒共稱スヘキ程ノ儀ハ、相見ヘ可申乎ト存候、右ノ類ト雖モ、  
 總テ目安糾ノ上、引負違算等ノ確證無之上ハ、民法上ニテ採  
 上間敷筋ニ候哉、相同候也、

指令

第一條 小前ノ者、其手元ニ一ノ證據トス可キ書類モ無之  
 時ハ、何様ナル者ヲ以テ、何様ノ訴ヘヲ為スヤ、銘々ノ思量  
 ノミニテ確證無之訴訟ハ、民法上素ヨリ不及受理事、  
 第二條 役場ノ帳簿ヲ一覽イタシ度訴ルトハ、一旦戸長等  
 ニ於テ、一覽ヲ拒ミタルト等モ有之レヤ、事實不相分ニ付、  
 詳細可伺出事、

第三條 前條再伺ノ上、可及指令事、

第貳 委任狀ニ付伺ノ事 同上新川縣伺  
八年一月十三日指令

昨年御省日誌第九十四號、新治縣伺ノ御指令ニハ、人民相互  
 委任狀ハ、界紙ヲ用フルニ不及ト有之也、夕同百九十號大分

委任狀



縣同ノ御指令ニハ界紙ヲ用フ可シト有之、右兩岐ノ御指令  
孰レニ據リ可然哉、相伺候也、

指令

明治七年第三百三十七號御布告ノ通、相心得可ク候事、

第三 雇人税金ノ事

同第七号山梨裁判所伺  
八年一月十五日指令

本省日誌百六十二號東京裁判所伺ノ後項ニ、農工商其職業  
ノ為ノ雇入レ候者ハ、僕婢税規則第三則ニ無税ト有之云々、  
無税ノ者ニ付、税金五倍ノ科料申付難ク候間、違式輕ニ問ヒ  
聽贖シ可然哉ノ伺ニ、伺ノ通ト有之、右伺面ニ依リ候ヘハ、無  
税ノ者ニ限リ、雇人ノ男女十八歳上下ノ分別ナク、違式輕ニ  
問懲役十日ノ贖金七十五錢ニ處スル儀ニ可有之、然ル時ハ

雇人税金

十八歳以下ノ男子、及ヒ婦女ニ到リ候テハ、却テ有税ノ者ヨ  
リ稍重ニ過キ候ニ付、無税ノ雇人届出サル者ハ、違式註違條  
例ニ依リ、七十五錢以内ノ科料ニ處シ候テハ如何可有之哉、  
相伺候也、

指令

違式輕ニ問ヒ處斷スル者ハ、註違條例ニ照準スルヲ許サ  
ス、

第四 遅參不參ノ事

同上東京裁判所伺  
八年一月十五日指令

本年甲第二十壹號布達、裁判所取締規則第九條改正、遅參不  
參ヲ致ス者ハ、斷獄課ニ廻シ、違式ノ輕重ニ問ヒ、相當ノ罰金  
ヲ科ス可シト有之、右ハ自今斷獄課ニ於テ處置スル上ハ、官

遅參不參



吏及ヒ華族、其他婦女老小等、各贖罪收贖例圖ニ照シ處分シ、其無力者ニ至リテハ、實斷折半等ニ換ヘ、本年七月十七日附當廳伺濟ニハ依ラサル儀ト相心得可然哉、相伺候也、

指令

伺ノ通、

第五 死囚出願ノ事

同上和歌山縣伺  
八年一月十五日指令

斷獄則例第二十三則第二項、若シ某等親ヘ遺囑等ニ係ル者ハ、此限ニ非ス云々、若シ死囚ノ父母子孫等、生前一度面會ヲ願出テ、其情願事故懇切ナル者、許可セサルモ憫然ニ付、如是者ハ刑名宣告ノ後ト雖モ、許可致シ可然哉、但面會ノ節ハ司獄官典獄卒等取締置キ、白洲上ニ於テ對面為致可申乎、相

死囚出願

伺候也、

指令

伺ノ趣難差許候事、但斷獄則例第二十三則第二項ハ、死囚ヨリ裁判官ヘ申告スル意ニテ、其父母子孫等ヨリ、願出ル儀ニハ無之候事、

第六 罪囚諸件

同第八号滋賀縣伺  
八年一月十七日指令

懲役限内老疾シ、收贖スル者無力ニシテ贖フ不能ハサル者ハ、已ニ役スル日數ヲ除去シ、未タ役セサル日數ヲ折半減等シ、服役セシメ可然哉、  
老少廢疾者懲役終身ノ罪ヲ犯セハ、例ニ照シテ收贖ス、然レハ懲役終身ノ囚モ、役限内老疾スレハ收贖セサルヲ得ス、然

罪囚



ルニ懲役限内例圖ニ、終身ノ者不相見、右ハ懲役終身ノ收贖金三十五圓ノ内ニテ、既ニ役スル日數ヲ、假リニ收贖金ニ折算扣除シ、剩ル金數ヲ追ス、假令ハ終身ノ囚、已ニ役スル日數五年ニシテ、老疾スレハ五年ノ收贖金十五圓ナルヲ以テ、剩ル二十圓ヲ追徴シ、放免シテ可然哉

過失殺傷ヲ犯シ、收贖ス可キ者、無力ニシテ贖フ不能ハス、懲治監ニ入ル、者、右役限中老疾スレハ、老疾ノ收贖金額三拾五圓ノ半ニ滿ルヲ期トシ、放免シテ可然哉、

贖罪延期中、老疾スル者ハ、收贖ニ改正シテ可然哉、

懲役終身以下ノ囚、役限内病ニ罹リ、危篤ニシテ快癒ノ徵候ナキ者、醫案確實ナレハ、御省日誌本年第百二號島根縣伺御

旨令ニ依リ、收贖シテ家ニ歸スノ處、未前顯ノ如キ危篤ノ場ニハ至ラスト雖モ、數月ヲ經ルニアラサレハ、全治ニ至ラサル者、醫案確實ナレハ、當縣未夕病監ノ誤、無之殊ニ從來ノ監ハ、狹隘ニシテ強壯ノ者ト雖モ、健康ヲ害スル程ノ儀ニ付、夫カ為ノ遂ニ不治ノ場ニ至ラシメ候テハ、憫然ノ至、且傳染病等ニ至ツテハ、此囚ト雜居難致、仍テ如此キ者モ親屬ニ責付シ、病愈ルヲ待テ、再ヒ服役セシメ可然哉、

人命賊盜等ノ重犯ヲ除クノ外、罪懲役十年以下ニ該ル未決囚、父母資産等アツテ、逃走ノ憂ナク、且推問ニ差支無之見込ノ者ハ、吟味中親屬ニ責付シテ可然哉、但シ命盜等ノ者ト雖モ、病ニ罹ル時ハ、前條同様親屬ニ責附シテ可然哉、



老少癡疾婦女等ノ、收贖ヲ聽ス罪ヲ犯ス者ハ、禁獄セサル儀  
ト存レ候ヘ共推問中監倉ニ入ル、ハ不苦候哉、

御省日誌本年第十九號、東京府伺御指令ニ、役囚ノ父母病ニ  
罹リ云々トアリ、右ハ縱令數百里ノ遠地ニ係リ候トモ、聞届  
ケサルヲ得サル儀ニ候哉、且守卒ノ旅費迄、願人ヨリ為差出  
候テ可然哉、

未決囚ノ父母病ニ罹リ面見致度肯願出ルモ、前條ノ通可執  
計儀ニ候哉、

前第八條ノ場合、若シ遁逃セシムルトキハ、保管人ハ勿論、守  
卒モ亦罪ニ坐レ候哉、

前第八條御指令中、啻病苦<sup>キ</sup><sub>レ</sub><sup>ク</sup><sub>レ</sub><sup>シ</sup>ノ<sup>レ</sup>應答ニ止メ、他故ニ及ツテ

聽リストアリ、然ラハ役囚病ニ罹リ親屬ニ責付スル<sup>レ</sup>モ難

相成次第ニ相當リ候ヘ共、懲役三年以下ノ囚、傳染病等ニテ

其儘難差置者ハ、親族ヘ責付スル<sup>レ</sup>ヲ聽ス旨、兼テ當縣ヘ御

指令有之、因テ相考候ニ、右ハ囚ノ輕重ニ依リ、差別有之、事ニ

テ、若シ輕重ノ囚ナレハ、止テ親屬ニ責付スル迄ニテ、列級守

卒ヲシテ警送セシムルニ及ハサル儀ト、相心得可然哉、

監獄則雜則中、役囚、父母ノ喪ニ違フ者ハ七日、夫及ヒ兄弟妻

子ノ喪ハ三日、各休役セシムトアリ、又改定律例第十九條禁

錮百日以下限内ニ、祖父母父母云々トアリ、右等ノ日數ハ、刑

限内ニ算入シテ可然哉、

懲役百日以下ノ囚、限内祖父母父母死亡シ、葬式ヲ行フ<sup>レ</sup>ヲ



願立レハ、之ヲ聽シ、親屬ニ責付シテ可然哉、但シ未決囚ハ  
 輕罪ノ見込ノ者ト雖モ、難差許候哉、  
 懲役人、他人ニ掛リ貸金滞、役限内出訴セサルトキハ、裁判期  
 限ニモ拘リ、或ハ自家相續等ノ儀ニ付、止ムヲ得ス、民法上ノ  
 訴ヲ為サンコトヲ願立ツレハ、之ヲ聽シ、假令其者直ナルモ、曠  
 役ノ日數ハ、役限内へ算入セスシテ可然哉、  
 未決囚ヲ相手取、民法上ノ訴ヲ為ス者有之トキハ、處刑相濟  
 △迄、見合可申旨申渡シ可然哉、  
 未決囚、父母ノ喪ニ逢フ者ハ七日間、夫及ヒ兄弟妻子ノ喪ハ  
 三日間、處刑鞫問ハ見合候テ可然哉、  
 懲役人常例ノ休暇ニ苦役シテ、日數ヲ縮メン事ヲ願フ者有

之、假令内働ノミニテモ可開届筋ニ無之哉、奉伺候也、

指令

第一條 例第四十九條ニ明文アリ、  
 第二條 懲役終身ニ發遣シ、老疾スル者、人命放火等ヲ除ク  
 外、其羸弊シテ役ニ堪ヘサルノ證確實ナレハ、懲役終身ノ  
 收贖金三十五圓ノ内ヨリ、一年ヲ金三圓ニ折算スルノ法  
 ニ依リ、収贖シテ放免スルコトヲ聽ス、  
 第三條 過失殺傷ヲ犯シ、無力ニシテ懲治監ニ入ル、者ハ、  
 刑名ニ非ス、服役中老疾ニ係リ、羸弊シテ役ニ堪ヘサルノ  
 證確實ナル者ハ、雇工ノ錢數、贖金ノ半額ニ足ラサルモ、放  
 免スルコトヲ聽スト雖モ、其輕役ニ服ス可キ者ハ、仍ホ本法



ヲ盡ス、

第四條 贖金宣告ノ後ハ、收贖ニ改正ス可ラス、

第五條 伺之通、

第六條 犯者アラハ、事狀ヲ具載シテ伺出可シ、

第七條 婦人輕罪ヲ犯スハ、本夫若クハ親屬隣保ニ責付シ

テ保管セシム、收禁スルヲ聽サス、婦人犯罪條ニ明文アリ、老小癡疾者モ、父兄親屬等ニ責付シテ、保管セシム可シ、

第八條 東京府伺指令中、遠地トハ一日或ハ二日程ノ者ヲ謂フ、父母數百里ノ遠地ニアルモノハ、許多ノ日月ヲ費スカ故ニ、危篤中ノ面會ハ成リ難シ、願出ル者ハアル可ラス、若シ願フ者アレハ、東京府へ指令ノ通方法ヲ盡シ聞届苦

シカラヌ、守卒ノ旅費モ願人ヨリ差出候ハ、勿論ノ事、

第九條 本罪ノ輕重、且事狀等ヲ詳ニセサレハ、一概ニ差免シ難シ、詳細書ヲ以テ伺出可シ、

第十條 伺之通、

第十一條 前第八條父母ニ面見スルハ、病苦ヲ訪シカ為ナリ、故ニ他事ニ及フヲ聽サス、本犯病アリ親屬ニ責付スル者ト異ナリ、本文ノ如キハ伺ノ通、

第十二條 伺之通、

第十三條 本條但書共難差許候事、

第十四條 代人ヲ用ヒテ訴訟ヲ為サシム可シ、本人自ラ訟庭ニ出ルヲ聽サス、



第十五十六十七條 三箇條共伺之通

第七 被告連名ノ事 同上京都裁判所伺  
八年一月十七日指令

被告連名

原告、京都府下ノ者ニテ、被告連名中、甲ハ大坂鎮臺ノ兵員、乙丙ハ京都府下ノ居住タルヲ以テ、當廳ノ裁判ヲ乞ヘリ、右ハ訴答文例第八章第二十七條ニヨリテ取揚ケ、甲ヲ呼寄セ不苦儀ニ可有之哉、將、大坂裁判所ノ裁判ヲ乞ハシムヘキ筋ニ候哉、相伺候也、

指令

甲ヲ呼寄可申事、

第八 犯罪私和ノ事 同上長崎裁判所伺  
八年一月十七日指令

犯罪私和

刑法裁判上、既ニ鞫問ニ保ル者ニ於テハ、犯罪私和スルヲ不

聽哉ニ存シ候處、本省本年第十號御布達以來、犯姦私和ノ儀ニ付、各裁判所各縣ヨリ追々伺出御指令ノ趣、本年日誌ニ載テ明文アリ、然ニ同百六十四號滋賀縣伺御指令ノ内、人命盜罪等ヲ除ク外、鬪毆及ヒ罵詈等ノ私和ハ不問ニ置クモ、其他各罪ノ問不問ハ、豫メ概論シ難シト有之、右鬪毆傷以罵詈ノ私和スル如キハ、固ヨリ鞫問ノ前中後ニ關セス、私和ヲ請フ者アルキハ犯姦同様直ニ放免可然哉、相伺候也、

指令

鞫問中私和ヲ聽ス罪ハ、有夫姦ニ限ル、滋賀縣ヘノ指令ハ、鞫問ニ係ラサル者ヲ云フ、又鬪毆ハ傷ヲ成スト雖モ、鞫問ニ係ラサレハ、私和ヲ聽ス、



警察

第九警察規則附錄伺ノ事 同第十一号神奈川縣伺  
八年一月十九日指令

客歳第百二十八號太政官御達書、司法警察規則附錄中、左ノ  
麻々如何相心得可然哉、

第一條、内外人、公使館ノ名籍ニ在テ、他所ニ住スル者、或ハ  
其本人、公使館内ニ居住シ、家族他所ニ住スル者等、都テ公  
使館屬員ト見做シ可申哉、

第三條、公使館ニ属スル内國人、若シ途中ニテ、違式註違等  
ノ輕科ヲ犯ス事アレハ、其場ニ關スル邏卒等ヲシテ、一旦  
公使館ヘ同道セシメ、何官ノモノニ接遇シテ、照會ヲ遂テ、  
及ヒ本人ハ再ヒ召連、警保屯營ニ於テ、處分ヲ施シ可申哉、  
第六條、公使館外ニ於テ、重罪犯行アル外國人ヲ引留、同館

ヘ引渡ノ際、彼ヨリ受取証書ヲ得ルモノニ可有之哉、内國  
人ナレハ、彼ヨリ引渡ノ手順不相濟中ハ、警保屯營ヘ留置  
可然哉、

第七條、公使館ニ属スル内國人、罪科明了ニシテ、其館外周  
圍ノ各路ヲ遮断スト雖モ、若シ館主隨從他行シ、或ハ隨行  
ノ節、現行犯罪有之等ノ場合、彼レ等車馬等ニテ馳驅シ追  
跡シ不能ヨリ、逃亡ノ憂有之、右等ノ節ハ如何取計可申哉、

指令

第一條 第三條 第六條 總テ伺ノ通、  
第七條 直ニ其旨ヲ外務掛ヘ報知シ、之カ處分ヲ施シ、尚嚴  
密逮捕ノ手配ヲ為スヘシ、



訴訟

第拾

訴訟云々ノ事

同第二十二号長崎裁判所何  
八年二月十二日指令

總テノ訴訟、原告被告突合審問ノ節、原告ノ内一方其事件ニ付、要用ノ證據書類持參無之時ハ、其日ノ裁判ヲ猶豫シ、後日雙方無漏證據書類持參可致日時ヲ違シ可申、然ル時ハ一方證據モ、持參無之為人、一方一日ヲ空シク過シ候事ニ付、其一日訴訟入費ハ、其事件ノ曲直ニ不拘、證據モノ持參無之者ヨリ、償却為及可然哉、  
貸金穀、其他ノ訴訟、原告人ヨリ訴狀差出シ候節、被告人旅行中ノ旨申立ル時、訴狀取揚ケタル上ハ、被告呼戻方ノ儀ハ、其者家族、家族ナケレハ親戚、獨身ナレハ戸長へ裁判所ヨリ、呼戻シヲ相違可然乎、

前條ノ場合ニ於テ、家族親戚戸長等ヨリ、被告人旅行先へ呼戻ヲ申遣シ候ハ、其場ヨリ他行政シ居、行衛不相知旨申出候時ハ、失踪人ト見做シ、戶籍法三十六箇月相立、相續人へ相掛ル乎、又ハ本人見當次第可訴出旨相違シ、訴狀却下シ可然乎、  
養父母ヨリ、養子戸主離縁ノ訴ヲナシ、原告被告親戚朋友等ノ證據人、一同審問ノ末裁判シ、原告曲者トナリタル時、訴訟入費ハ、養父母ヨリ償却可致旨申渡シ、然後養父母償却ノ資力無之旨申立ル時ハ、證據人等ノ入費ハ、戸主ヨリ償却為及可然哉、

前條ノ場合ニ於テ、養子曲者トナリタル時、訴訟入費ハ、養子



一身ノ所有物ヲ分散シ、不足ハ實父母ヨリ可為及償却事、養子戸主中ノ負債、離縁ノ後、債主訴出ル時、其負債ハ養家跡相續ノ者ヘ掛リ訴訟為及可然乎、奉伺候也、

指令

第一條 伺ノ通、

第二條 戸長並、家族親戚等ニ、旅行中ノ者呼戻シテ申付ル  
トアル可ラス、被告人旅行中ナラハ、其家事總代理ノ者アル可キニ付、原告人其總代理ノ者ニ對シ、訴出ツ可キ旨申渡ス可シ、若シ總代理ノ者アラサレハ、被告入呼出狀ヲ原告人ニ下付シ、原告人之レヲ旅行ノ地ニ達スルカ、又ハ被告入歸郷ノ上、再度訴出ル共、原告人ノ情願ニ任ス可キ事、

第三條 戸長並、家族親戚等ニ呼戻シテ申付ルトハ、之レナキニ付、若シ被告人旅行中、總代理ノ者ナクシテ、原告人於テ呼出狀ヲ、旅行ノ地ニ達シタルニ、被告人其地ニ在ラス、轉シテ何地ニ行キシヤ、其踪跡分明ナラサル時ハ、乃チ失

踪後ノ出訴ト看做シ、處分スルトハ伺ノ通、  
第四條 第五條 訴訟入費ハ、曲者ノ一身ニ止マルヘキ事、  
第六條 伺ノ通、

第拾壹 始審終審ノ事

同第二十七号足柄裁判所伺  
八年二月十三日指令

明治十年本省第廿六號御布達、第一人民相互ノ訴訟、第二院省使府縣ヨリ、人民ニ對スル訴訟、但云々、第三裁判所設アル各府縣廳ト、人民トノ間ニ起ル訴訟、但云々、布ハ各地方裁判

始審終審



應ニ於テ、始審ノ裁判ヲ為シ、若シ控訴ヲナシタル時ハ、司法  
裁判所ニ於テ、終審ノ裁判ヲ為ス可キ事ト有之、裁判ハ始終  
ノ二箇ニ止ル儀ニ候歟、司法職務定制第十七章、各區裁判所  
章程中、第七十二條裁判言渡ノ上、雙方ヲシテ其方ヲ盡サシ  
ムルニ、服セサル者ニ付、第七十三條ニ依リ、裁判狀並ニ添書  
ヲ以テ、府縣裁判所ニ上告ス、該廳ニ於テ一件書類ヲ調査ス  
ルニ、其受理スル處、若シ見込ヲ誤候廉アレハ、覆審セサルヲ  
得サル故、審理ノ後、更ニ裁判言渡ヲナス、亦不服ヲ唱ヘ控訴  
ヲ乞フ、之ヲ司法裁判所ヘ差廻ス、結局三次ニ及フ手續ニ相  
成候得共、本支廳ノ裁許ハ、同裁判所中ノ事ナレハ、二次トモ  
始審ト見做シ可然哉、權限始終ノ二字、疑義ヲ生シ候間、此段

相伺候也、

指令

地方裁判所ニ於テハ、終審ノ權之レナキニ付、明治七年當省  
布達第二十六號ノ通可心得事、

第拾貳 身代限後家督ノ事

同第三十三号地理寮ヨリ問合書  
八年三月四日回答

昨年御省日誌第四十四號、新川縣ヨリ身代限り可申付者、俾  
又第等ニテ可取立身代無之者ハ云々伺ニ、可取立身代無之  
者ハ放免スヘシ、追テ家督相續等致ス共、其節追徴スルニ不  
及候事ト指令有之、又同第百五十四號、島根縣ヨリ二三男又  
ハ厄介タルノ時、負債ヲナレ云々伺ニ、二三男又厄介人、他姓  
ノ冒シ戸主トナリタルガハ、乃チ該家ノ財産ヲ專有スヘキ

身代限後  
家督



者ニ付、自己ノ舊債ト雖モ、直ニ其專有スル所ノ財産中ヨリ、償却可申付事ト、指令相見ヘ、右ハ何レヲ御省定規ト可見做哉篤ト御垂示有之度、此旨及御照會候也。

回答書

二月十三日附ヲ以テ、明治七年當省日誌第四十四號及、第五百十四號新川島根兩縣伺指令云々ノ儀ニ付、御問合ノ趣、致承知候、右ハ兩指令トモ裁判上ノ定規ニ有之ニ付、何レモ定規御看做可有之、其譯柄ハ民事刑事兩様區別ノ定規ナリ、即チ新川縣伺ハ、刑法上追徵ノ處分ニシテ、島根縣伺ハ、民法上償却ノ儀ニ有之候、此段及御回答候也。

第拾三

遷卒等ノ毆ツノ罰改定ノ事 同第三十八号福岡縣へ達書 八年三月九日

毆遷卒

昨明治七年七月三十一日付ヲ以テ、平民遷卒番人ヲ毆ツ者ノ儀伺出ニ、本籍ヲ以テ論スト及指令 七年第五百五十三号七丁見合 置候處再議ニ因テ左ニ記載ノ通り、改定候條、此段更ニ及御達候也。遷卒番人ヲ毆ツ者ハ、凡人ニ二等ヲ加テ、折傷以上ハ、凡闘毆ヲ以テ論ス。

第拾四

賣渡シ地所等差違ノ事 同第五十二号東京裁判所伺 八年四月四日指令

賣渡シ地所

高知縣士族坂本直所有、駒町紀尾井町四番地々所建家共、昨七年五月同縣士族山崎利則へ、代金三百五十五圓ニ賣渡ス約定致ス處、同人儀即時調金届兼ルニ付、地所ノ儀ハ、東京數寄屋町平民山中隣之助ニ、金調相頼、地券ハ、同人名前ニ書替候筈、直モ承諾ノ上、該區戸長へ申立、地券狀ニ隣之助へ賣渡



シノ裏書ヲ為シ、一同捺印スト雖モ、利則方建家代金差問ル  
 ヲ以テ、未夕直方ニ代價ハ不受取、右地券ハ其儘同人所持罷  
 在家作代金ノ儀、追々利則方ハ催促スト雖モ、不埒明終ニ直  
 ヲリ利則方ハ破談ノ儀申込、同人モ承知ノ返書之有之、直方  
 ニテハ隣之助ニ、直チニ引合兵ノ様アリト雖モ、原ト利則ニ  
 賣渡ノ約定故、本人破談ノ上ハ子細無之儀ト、隣之助ハ相断  
 ラス、右地所建家共、權大舍人池内基ハ、一手ニ賣拂候處、地券  
 裏書、已ニ隣之助ニ賣渡ノ文意ニ付、猶裏書致候ニ差問、隣之  
 助ニ掛合候處、地所ノ儀ハ同人買取候前約故、餘人ニ賣渡シ  
 候ハ、迷惑ノ旨申聞候ヨリ差違、直ヨリ難澁ノ趣訴出候、因テ  
 右處分ノ儀、熟考致候處、坂本直儀、假令山崎利則ニ最初約諾

スト雖モ、地所買受人山中隣之助名前ニアル上ハ利則ト破  
 談ノ砌、隣之助ハモ對談遠ケヘキ處、無其儀池内基ハ一手ニ  
 賣渡セシハ、不念ニ付、相當ノ處置ニ及フト雖モ、右地所代價  
 不受取、殊ニ地券書替モ不相濟以上ハ、所有ノ權利素ヨリ直  
 ノ方ニ在ル、論ヲ待タス、將々山中隣之助ニ於テハ、一旦讓受  
 ヲ約シ、之カ裏書ニ調印ヲ為スモ、未夕代價ヲ不相拂、地券モ  
 受取ラス、其事實利則ノ依頼ニ應シ、一時出金スルモ、同人ヨ  
 リ月々利金受渡シヲ約シ、追テ元金調達ノ上ハ、利則所有ニ  
 屬ス可キ筈ニテ、到底隣之助ハ利則ノ金主ニ有之、曰ク然ラ  
 ハ、則隣之助ニ於テ、猶利則ヲ意ノ繼キ、地所家作共、一手ニ引  
 受ルハ格別、地所ノ引受度トノ申分ハ、採用難相成旨申渡



可然哉、且是等ノ儀ハ、民法課ニ付シ、處分可致モノ乎ト相考候ヘ共、先キニ刑法課ノ處分ニ係ルヲ以テ、猶刑法課ニ於テ為取扱可然哉、相伺候也、

指令

伺ノ通、尤、處分方ノ儀ハ、既ニ刑法上ニテ、處分ヲ經タル上ハ、別段聽訟課ニ移スニ及ハス、但本案ノ如キハ、原来民法上ノ儀ニ付、今後ハ聽訟課ニ於テ、可取扱事、

第拾五 年金ノ事

同第五十五号初木裁判所同八年四月十二日指令

一昨六年、第三百六十二號御布告出訴期限規則第三條中期限ナキ年金、及ヒ一生涯ノ年金ト有之候ハ、一方ノ者ヨリ、他一方ノ者ニ資本金ヲ貸渡シ、之ヲ取戻スナク、唯其利息

年金

ノミヲ得可キノ契約セシモノ、或ハ生存中ノ贈遺、又ハ遺囑ノ贈遺等ニ因リ、一生涯ノ間、年々何程宛與フルヲ契約セシモノ、類ニ候哉、右等佛蘭西民法第十卷貸借中、第十二卷偶生中ノ事ニ管スル契約中ニ散見スレド、皇國ニ於テハ、從前年金ノ稱呼アルヲ關カス、何分發揮ト難相分候間、此段相伺候也、

指令

年金トハ渡シ置キタル元金ヲ、到底受取ラスレテ年々ニ元金ヨリ生スル、幾部ノ金ヲ受取ル儀ト可心得事、

第拾六

租税金延納加利息ノ事

同第五十八号山形縣同八年四月十五日指令

第一條 租税金人民心得方等開ヨリシテ期限迄管轄廳ヘ

租税延納



納方不致者ハ、一箇月毎ニ、不納金百圓ニ付、五十錢ノ利足ヲ加ヘ、上納可致、其年七月ニ至リ、納方滞ルニ於テハ、本人身代限申付、本税利分トモ、一同為差出候積相心得云々、明治五年壬申九月第二百八十五號御布告ニ有之候處、區戸長ニ於テ取立置縣廳ヘ不相納、私ニ融通等致候者有之節ハ、適律處置仕候ハ、無論ニ候得共、納期限後ハ、金百圓ニ付、一月五十錢ノ利分、該區戸長ヨリ取立可然哉、

第二條 右一件取調ノ儀、假令ハ八月後、十二月ニ至ル共、裁決上納マテ百圓ニ付、一月五十錢宛ノ利分取立可然哉、右相伺候也、

指令

第一條 租税延納加利息ノ法ハ、其租税ヲ出ス可キ小前ヨリ、納方ヲ怠リシ時ノ定ニテ、戸長ノ手ニ受取リシ後ニ及ホス事ニハ之レ無シ、然レ共官廳ニ於テ租税ヲ受取ラサル間ハ、小前ノ延滞ト同一ニ看做ス可キニ付、戸長ノ手前ニ取立シ後、戸長ニ於テ他ヘ融通等ヲ為セシ時間、租税延滞ノ利息ト同額ノ償金ヲ、戸長ヨリ取立度旨訴出ルニ於テハ、伺ノ通處分及フ可キ事、

第二條 本年甲第四號大藏省布達ノ通り可相心得事、

第拾七 身代限配當順序ノ事 同第五十九号東京裁判所併八年四月十七日指令

本文(畧之)訴訟入費ハ裁判入費トモ相違致シ候ニ付、若、負債主於テ、債主中ノ一人ヘ抵當ニ差入タル物品ノ外、一切所有

身代限配當



物無之場合ニ於テ、ハ、右訴訟入費如何可取計哉ノ廉、相伺候儀ニ御座候也、

指令

身代限配當ノ順序左ノ通可相心得事、

一箇ノ物品ヲ以テ、甲乙丙ノ三人ニ對シ、借金ノ抵當ト為シ、甲乙丙ノ三人ヨリ、借主ニ對シ、出訴シタルキ、右抵當物品ノ糶賣代價ヲ配當スルノ順序左ノ如シ、

第一 裁判所又ハ縣廳、又ハ村町役場へ納ムヘキ、評價人監定人等ノ諸入費ヲ第一番ニ引去ルヘシ、

第二 甲ノ貸附ノ年月乙丙ヨリ先キナレハ、甲ノ貸金ヲ、第二番ニ引去ルヘシ、

第三 乙丙ノ貸附ノ年月、同年同月同日ナレハ、第三番ニ引去ルヘシ、

右ノ如クニシテ餘金アレハ、抵當ナキ丁戊ノ貸主ニ對シ、年月日ノ前後ヲ論セス、金高割ノ配當ヲ為スヘシ、前文ニ因リ、物品ノ糶賣代金ヲ配分スルニ當リ、特權ノ有無ニ因リ、金ヲ得ルノ區別左ノ如シ、

假令ハ糶賣代金四百圓

内 五十圓 第一番ノ評價等ノ入費五十圓

内 百圓 第二番ノ甲ノ貸金並利息及訴訟入費

合百圓

内 二百圓 第三番ノ乙丙ノ貸金並利息及訴訟入



費合二百圓

差引殘金五十圓

右ノ五十圓ヲ以テ、抵當ナキ金高ニ對シ、特權ナキ配當ヲ為ス。如左、

丙 三十圓 丁ノ抵當ナキ貸金並利息、及訴訟入費

合三百圓

丙 二十圓 戊ノ抵當ナキ貸金並利息、及訴訟入費

合二百圓

第拾八 裁判改正ノ事 同第六十二号敕賀縣伺 八年四月十九日指令

裁判改正

當縣下越前國大野郡新在家村惣代石川致右衛門外二人ヨリ、同郡野津俣村惣代松井傳兵衛外二人へ掛リ入會山爭訟

ノ義ニ付、再審見込伺上候處、事實詳細具狀候様、御指令ノ趣、敬承、即其手續申上候、右ハ明治七年二月廿日原被口供、拜此程差上置候、元祿兩度ノ裁許狀ニ依リ、甲印ノ通及裁許候處、被告ニ於テ縷々ノ苦情ノミ申立、受書モ不差出、去リ、逆控訴ニテ難及旨申上居、同五月十八日ニ至リ、乙印ノ通り實地檢査、再調、義強テ願出候ニ付、不服ノ節ハ控訴為致候ハ當然ニ候得共、尚審理上不盡ノ處ニ無之哉、該當屬官俱々恠礙ヲ遂ク、反覆及精覈候處、証據書類ノ誤認ヲ思覺シ、初當ノ裁判不當ノ疑ヲ起シ候ニ付、被告願書ノ義ハ預リ置、丙印ノ通ニ裁判引直シノ見込案相立、前後審理ノ當否如何可有之哉、一件書類相添伺上候事ニ御座候、尤此度ハ初發判決ノ取調手



續書之 進達仕候間、是ニテ何分ノ御指令被下度候以上、

指令

裁判役於テ、先裁判ハ證書ヲ誤認シタルニ因リ、不當ノ裁判ナリト見認ル上ハ、再審ノ上、至當ノ裁判ニ改メ可キ事、

第拾九 呼出シ人 旅費ノ事 同第六十三号水澤縣(違書八年四月二十五日)

本年二月七日附ヲ以テ伺出相成候第四五條旅費給與云々、

及指令置 本年第三十八号十丁見合セ 候處、今般別紙ノ通改議候條、此段更ニ及御達候也、

紙別

原告ノ為メ、自ラ来リ訴へ、或ハ賍物還付スル為メ呼出タル者ハ、旅費並ニ日當ヲ給與セス、然シ其証人トナル場合ニ

呼出シ人

違則

テ、呼出タル時ハ、原告人ト雖モ給與ス、

第貳拾 違則ノ事

同第六十七号小田縣伺八年四月三十日指令

第一條 實印ヲ他ニ預ケル儀ハ、兼テ嚴禁ノ處總理代入部

理代人等へ實印ヲ要スル儀有之節ハ、相渡候テモ不苦哉、或

ハ委任狀ヲ渡シタル者ト雖モ、仍ホ一般犯禁ノ者同様、其罪

ヲ問フヘキ儀ニ可有之哉、

第二條 罰則違犯屢斷ノ者、貧宴ニテ五日內ニ罰金完納能

ハサルキハ、直チニ實力限リ追徵可然哉、

右相伺候也、

指令

第一條 實印ヲ他ニ預ケルハ、違式輕ノ罪アリト雖モ、本文



ノ如キハ其情法酌量減免セサルヲ得ス、裁判官ノ見込ニ任ス、

第二條 罰則違犯ノ者、貧窶ニシテ罰金完納能ハサル者ハ、身代限り取上クヘシ、但シ罰金ニ限り、爾後其者身代持直ニ候下モ、再度取立ルニ及バサル事、

**第貳拾壹** 闘毆私和ノ後訴ノ事 同上白川縣伺 同年同月日指令

爰ニ甲乙闘毆シ、甲乙ヲ傷ス、爾後甲、他人ヲシテ私和ヲ乙ニ乞フ、乙之ヲ諾ス、然ニ數日ヲ越ヘ、乙仍前<sup>前</sup>出訴スル者アリ、右ハ一旦私和相成リ、甲既ニ無罪ニ歸スル上ハ、乙ノ出訴受理致サスニテ可然哉、果シテ然ラハ、其出訴ノ片、曩キニ私和スルノ次第明カナラス、甲乙<sup>訊</sup>料ノ上、初メテ其儀相

闘毆

分ル者モ、亦同斷不問ニ置キ可然哉、相伺候也、

指令

一旦私和スト雖モ、出訴スル者ハ、闘毆ノ罪ヲ科ス可シ、

**第貳拾貳** 被告病氣代言ノ事 同第七十一号三藩縣伺 八年五月三日指令

聽訟上被告代言人云々ノ儀ハ、訴答文例第三十五條ノ通ニ有之候處、被告人長病ニ係リ、三四箇月ノ久シキ、出頭難致節ハ、代言人ノミ可差出旨申付可然哉、果シテ然ラハ、裁判申渡等ノ儀モ、代言人ノミニ止リ可然哉、或ハ全快ノ上、尚可訴出旨申聞、訴狀却下致シ可然哉、相伺候也、

指令

事實出頭難叶者ハ、本人ノ親族中、証書ヲ以依托ヲ受タル名

被告病氣



代人ヲシテ、代言セシメ不苦候事、

但親族中ニ可然名代人無之トキハ、他人ニテモ不苦事、

**第貳拾三** 出願証告ノ事 同上高知縣何  
八年五月四日指令

刑法裁判ノ儀ハ、現行犯罪者ニ就テ其罪ヲ彈シ、刑典ニ處シ、其惡ヲ懲シメ候儀ハ論ヲ竝ス、然處當縣ノ如キ、僻遠ニシテ頑梗弗率ノ人民多ク、動モスレハ金穀其他相對貸借ヲナシ、返濟延滞義務ヲ盡サ、ルヨリ、異論ヲ生シ、其末民法裁判ヲ乞ト雖モ、証書上犯則有之採用不致、且無證據等ノ類畢竟熟談不相整ヨリ、官ノ裁斷ヲ仰カン為ニ、無謂罪名ヲカリ猥ニ吟味願出ル者往々有之、右ノ類ハ最初ヨリ取揚スシテ可然哉、若シ採上テ推問ヲ遂ル時ハ、前件ノ如、其實相對貸借ノ儀

出願証告

ヲ、容易ニ罪名ヲ唱、訴候儀ニ決スル時ハ、証告ノ罪ヲ問ハサルヲ得スト雖モ、根元愚昧ノ民情ヨリ已ニ罪ノ歸ス事ヲ不知、訴出者ニ有之、其情聊憫諒スヘキ者ニ付、彼是扱上差支候右ハ如何處分致シ可然哉、此段相伺候也、

指令

無謂罪名ヲカリ吟味願出、証告ノ証確乎タル者ハ、刑法裁判ニ付スヘシ、然レモ全ク愚昧ノ情ヨリ、罪ノ歸スル所ヲ知ラスシテ訴出ル者ハ、説諭シテ、訴狀ヲ下却スヘシ、

**第貳拾四** 社寺境内地面ノ事 同第七十三号東京裁判所何  
八年五月四日指令

明治六年太政官第二百四十九號公布ニ、神佛寺共古來所傳ノ什物云々ト有之、右ハ其境内地面モ、即什物ニ可有之哉又

社寺地面



ハ什物トハ品柄相異リ候哉判然了解致シ兼擔當ノ事件ニ付、差向處分方ニ差支居候間、此段奉伺候也、

指令

境内地面ハ、什物トハ品柄相殊ナルモノト心得ヘシ、但境内地面ハ、什物ヨリモ貴重ノ物トス、

第貳拾五 暫ク舊章程ニ據ル事

同第七十三号司法省伺書  
八年五月九日御指令

今般司法諸部職制章程御渡相成候ニ付テハ、右章程ニ据リ、諸部分ヲ區分シ、夫々施行可致候所、大審院ヲ始各裁判所等、右章程通り、未ク調理不相成、然ル所從來取扱来候事件中、半途ノ者不少、譬ハ舊章程ノ司法裁判所ニテ、扱来候斷獄事件ハ、各地方ニ於テ、難決ノ疑獄ヲ送付致シ候者、或ハ舊章程ニ

旧章ニ據ル

據リ、取扱候新調ヘモノ、又ハ斬絞懲役終身ノ外、各地方ニ於テ處斷ニ可及者ノ内、難事ニ涉リ難決ニ付、司法卿ヨリ指令致シ来候者等ノ類、右等新章程ニ據レハ、總テ各地方ニ還付可致筋ニ相當候所、前斷大審院ヲ始メ各裁判所未ク新章程通、調理不相成候上ハ、是儘各地方へ還付致シ候モ不都合可有之ニ付、右半途ノ分ニ限リ、司法卿ノ見込ヲ以テ從前ノ通取計可申哉、此段相伺候也、

御指令

伺ノ通、



各賍

第壹

賍物抵償

賍物ヲ以テ抵償ノ事

司法省日誌第四号京都裁判所伺  
八年一月九日指令

爰ニ甲ヨリ乙ナル者ハ、金若干ヲ貸シ置ク處、返濟期限ヲ過ルニ依リ、甲督責ニ及フト雖モ、乙素ヨリ貧窮ニシテ、金融ノ途ナク、故ニ偶詐欺シテ取り來ル所ノ物品アルニ依リ、其實狀ヲ吐露シ、而シテ其物品ヲ以テ金策シ、返濟スルヲ受ル者之アリ、之ヲ處スル、其甲ノ罪、律例第百五十八條ニ照シ、坐賍ヲ以テ可論ヤ、將夕其詐欺ノ情ヲ知ルト雖モ、畢竟其返金ヲ受ルモノニシテ、貪慾ノ情狀ハアラサル者ニ依リ、是等ハ不應為輕ニ科シ、聽贖スルニモ可有之裁、相伺候也、

指令



坐賤ヲ以テ論シ、贖ヲ聽ス、

第貳無願ト伐木ノ事同上新瀧縣伺  
八年一月九日指令

祠宮寺職ノ者、官司ノ許可ヲ得スシテ、其社境内ノ樹木ヲ伐  
リ、其社寺ノ營繕ニ供スル者、或ハ其樹木ヲ賣拂ヒ、代價ヲ以  
テ營繕費ニ充ツル者、違令重ニ問ヒ、贖罪ニ處シ、追悔自首ス  
ル者ハ、首免ヲ與フト雖モ、右ハ贓罪ニ係ル者ニ無之、且狡猾  
ノ徒、既ニ其樹木ヲ費用スルノ後、免罪ヲ求メンカ為メ、首出  
スル者有之候テハ、竊ニ除稅地ノ樹木ヲ伐取スルノ弊不勘  
ニ付、其樹木ハ費用スルト否トヲ不問、代價ヲ計算シ、官廳へ  
還付致サセ候儀ト心得罷在候處、御省日誌本年第百五十八  
號筑摩縣伺ニ、右等已ニ費用スル者ハ、追償スルニ及ハスト

無願伐木

御指令相見へ、疑惑ヲ生シ候ニ付、如何相心得可然哉、附本  
文筑摩縣伺ニ依ル時ハ、鄉村社道路修繕、其他村用等ノ為、無  
願ニテ官林ヲ伐木スト雖モ、贓已ニ入レサル者ハ、違令輕重  
ニ問ヒ、贖ヲ聽スヘキ儀ニ候哉、昨六年十月越後國蒲原郡濁  
澤村農難波喜ハ難波高藏高井佐次郎儀、地券調入費ノ為メ、  
村内十二神社境内除稅地ノ樹木ヲ伐採ル節罪案ヲ以テ斷  
刑相同候處、棄毀器物、緣牆條入ノ器物ヲ棄毀シ云々、官物ハ  
一尋ヲ加フト云フ以テ論シ、贓ニ計ヘ、我身其財ヲ私ニスル  
ニ非サルヲ以テ、贖罪ニ處スル旨、御指令モ有之ニ付、添テ相  
伺候也、

指令



願濟ノ上代價納ム可キ者ハ、已ニ費用スルト雖モ追徴シ、若シ無代價ニテ許可ス可キ者ハ、止夕違令ニ問ヒ、追徴ニ及ハス、

第三 贋造知情ノ買取ノ事 同第五号大分縣同 八年同月日指令

爰ニ丁銀ヲ贋造スル者アリ、右ハ通貨ニ無之ニ付、御省日誌本年廿一號京都裁判所へ御指令ヲ援引シ、金銀ノ器物ヲ偽造スルモノト見做シ、其所得ノ奸利ヲ贋ニ計ヘ、竊盜ニ準シ可キ論決所、其情ヲ知テ低價ニ買取、他ヲ詐欺シテ高利ヲ得者モ、猶竊盜ニ準シ、其得ル所ノ贋ハ、原價ヲ引去リ、全ク得ル花利ノミ贋ニ計ヘ可申裁、又ハ全數ヲ計算可仕裁、其全數ヲ計算スレハ、贋造主ヨリ却テ贋金高倍殖シ、重罪ヲ科スルニ諛

贋造知情

ル、如此ハ例第二百四十九條ノ權衡ニヨリ、贋ノ多寡ヲ不論贋造者ノ從トナシテ論シ可然裁、相伺候也、

指令

贋造ノ情ヲ知テ買取シ、利ヲ圖ル者ハ、得ル所ノ花利ヲ贋ニ計ヘ、竊盜ニ準シテ論ス、

第四 各贋諸件 同上大分縣同 八年同月日指令

六年第百四十七號小倉縣伺ニ、農工商、其職業ノ為メ使用ノ者ハ、男女共無税ト有之、無税ニテ使用スル者、戸主ノ財ヲ盜云々伺ニ、雇人其届未濟ニ盜メハ、律例第百四十三條ニ依ルヘシ、税ノ有無ニ不拘、其無届ニテ拘置、雇主ハ、僕婢罰則ニ依ルヘシト御指令有之、同百六十二號東京裁判所伺第二條同

各贋



竊ノ者云々、雇主ニ至テハ税金五倍ノ科料難申付ニ付、違式  
輕ニ問ヒ聽贖シ可然哉ト有之ニ、伺ノ通ト御指令相成、東京  
裁判所ヘノ御指令允當ニ奉存候間、右ヲ援引可然哉、

戸籍届未濟雇人、又ハ職業ノ為メ無税ニテ使用スル者、毆雇  
主、又ハ罵雇主、キハ、右ノ權衡ニヨリ届不届ヲ論セス、家長ヲ  
毆罵スル律ニ科ヒ、雇主ハ奴婢罰則、及ヒ違式ニ區處仕、可然  
哉、

同百二號、東京裁判所伺ニ、詐欺取財手段ノ為、物品ヲ預ケ置  
ニ、主ナキハ預リ主ニ給シ、若シクハ甲ニテ詐取ル品ヲ、乙ニ  
預ケ置類ハ取上、甲ニ還附セシムヘキ哉ノ伺ニ、伺ノ通ト  
リ、同百二十號千葉裁判所ヨリ、盜犯ノ捨置品云々再伺ニ、得

遺失物例ニヨラス、主アレハ全ク主ニ給シ、主ナキハ官ニ没  
スト御指令相見候所、同百四十九號警視廳ヨリ、遺失物取扱  
規則中第二條ノ伺ニ、其蹤跡ヲ得ル迄ハ、期限ヲ定メス、出張  
所ニ留置キ、探索ノ用ニ供スヘシト、尚ホ甲ヨリ竊取セル物  
ヲ、乙ノ家ニ捨置ク如キハ云々ノ伺ニ、盜レ主明白也ト雖モ、  
其賊捕ニ就クヲ待テ後、處分スヘシト有之、前項ハ千葉裁判  
所ヘ御指令ト聊、異同アリ、右ハ何レニ適從可然哉、相伺候也

指令

第一條 東京裁判所ヘ、指令ノ通り、

第二條 伺ノ通、

第三條 盜犯ノ遺棄シタル物品訴出ルヲ、官ニ領置スル者、



事主明白スレハ、直ニ給與ス、若シ一年ノ間、盜犯縛ニ就カ  
ス、事主明白セサレハ官沒ス、

**第五** 贓金兩替ノ事 同第八号東京裁判所伺  
八年一月十五日指令

贓金兩替

本年日誌第六十六號兵庫裁判所伺指令ニ、盜贓タルノ情ヲ  
知ラス、判金ヲ兌換スルニ判金兌換ノ手ニ現在スト雖モ、盜  
犯、金ヲ還付スルニ非レハ、直チニ追徴スルヲ得ス、若シ盜  
犯ヲ捕獲スルニ、賠償ス可キ資力ナケレハ、事主ノ損失ト為  
スト有之、然ル處當府下兩替屋等取締規則揭示條款内第三  
條ニ、古金銀或ハ身分不相應ノ金銀ヲ兩替スル者アラハ、必  
ズ証人ヲ立サセ、兩判ヲ取り置可シトアリ、因テ其規則ヲ背  
カサル者、追徴ノ方法ハ、上文兵庫裁判所御指令ニ照依シ、異

論ナシト雖モ、其規則ヲ背キ兌換スル者ニ至テハ、古着古金  
渡世質屋等ト同ク、其規則ヲ背クノ罪ヲ問ハサルヲ得ス、然  
ルニ質屋等ニ於テハ、其盜贓ニ係ル物品現在スレバ、盜犯資  
力ナシト雖モ、必ズ追徴スルニ、特リ兩替屋耳ハ追セサル儀  
ニ可有之乎、

右取締規則揭示條款第二條ニ、典賣主ノ住所姓名ハ、兼テ熟  
知ノ者ト雖モ、必ズ詳細ニ明細帳ニ記載シ、當人ノ一判ヲ取り  
置ク可シ、若シ住所姓名等ヲ熟知セサル者ハ、証人ヲ同道致  
サセ、其兩判ヲ取り置ク可シ、兩替屋モ金高并替主ノ姓名住  
所等ハ、同様タル可シト有之、右兩替屋ハ假令五十錢ノ兩換  
スル者モ、一判或ハ兩判ヲ取ル儀ナル乎、又ハ止夕金高姓名



等記載スル迄ニテ捺印スルニハ及ハサル儀ニ候乎、  
同第七條ニ不正品ト心付キ品觸ヲ待タス或ハ品觸アリテ  
訴出ル者全價又ハ原價十分ノ三分ヲ典フルト有之ハ全ク  
規則ニ背カス典賣スル者ニテ無判ノ者ニ至リテハ訴出ル  
共自首ト同視シ其罪ハ免スト雖モ已ニ右條ニ詮議ノ上或  
ハ時宜ニヨリ等ノ文意モ有之上ハ原價ハ給與セサル儀ト  
相心得可然哉

先般盜賊等ノ情ヲ知ラスト雖モ公商公賈ニ依ラス買取シ  
轉賣セシ者物品現在ノ外賣却代ト雖モ已ニ費用スルハ追  
徴セシテ可然哉ト相伺候處伺ノ通ト御指令有之然ルニ  
古着古金渡世等ノ者買取スル物品ハ已ニ轉賣シテ所在ヲ

知ラスト雖モ仍ホ其代價ヲ以テ他ノ物品ヲ賣買シ或ハ菓  
子渡世ノ者砂糖ヲ買取シ其買取セシ砂糖ニテ製菓スル如  
キハ即チ商業ニ費用スル者ニテ衣食等ニ費用スル者トハ  
異ナリ因テ右等ハ其代價ヲ追徴シテ可然乎將タ上文御指  
令ニ依レハ總テ賣却セシ代價現在セサレハ費用ト見做シ  
追徴セサル儀ニ可有之乎

改定律例第五十八條盜贓ヲ以テ舊債ニ抵償スル者ハ債主  
情ヲ知ラスト雖モ云々已ニ費用スル者ハ追徴スルヲ勿レ  
ト有之假令ハ債主豪商等ニテ巨萬ノ資力アル者ト雖モ抵  
償ノ贓已ニ費用スト陳述スル以上ハ都テ追徴セサル儀ニ  
可有之哉



右條々疑義相生ニ候間、奉伺候也。

指令

第一條 揭示條款ニ背ヒテ、兌換スル者ハ、例第百五十七條  
牙保ナクシテ典賣スル者ト同シク、追徴ス可シ、

第二條 金高姓名等記載スル迄ニテ捺印スルニハ及ハサ  
ルモノトス、

第三條 伺之通、

第四條 費用ト見做シ追徴ニ及ハス、

第五條 陳述ノ虚辭ニ非ル者、伺之通、

盜贓賣德

第六 盜贓賣德ノ事、同第九号和歌山縣伺  
八年一月十七日指令  
公商公賈ニ由ラスシテ、盜贓ヲ買取スル者、盜犯資力アリト

雖モ、賣德ハ追徴シ官沒ス可キ乎、將夕盜犯資力アル者ハ、別  
ニ賣德ヲ追徴スルニ及ハス可然哉、

指令

盜犯資力アルハ、賣德ハ追徴ニ及ハス、

第七 贓金各別ノ事

同第十号廣島縣伺  
八年一月十七日指令

贓金各別

爰ニ十圓五十錢ノ竊盜アリ、内一圓五十錢ハ縣社拜殿ノ金  
具ヲ盜ニ付、改定律第百二十三條ニ照シ、盜大祀神御物條金  
配刀ヒノ属ヲ盜ニ準シ、竊盜罪ニ一等ヲ加ヘ懲役七十日申  
付、剝ル九圓ノ竊盜駐ニ、二罪俱ニ發スル例ニ照シ、不問ニ置  
可然哉、尤事小異アリト雖モ、本年御省日誌第七十一號一葉  
大坂裁判所へ御達書ニ、竊盜駐拾五圓餘懲役七十日、再犯ニ



係ルヲ以テ一等ヲ加ヘ、二十圓懲役八十日ト做シ、詐欺取財ノ贓九十五圓餘ニ并セテ、百十圓以上懲役七年ニ處スヘシトアリ、是ヲ以テ推類セハ、前章モ亦併贓シテ十圓以上懲役七十日ハ一等ヲ加ヘ、懲役八十日ニ處シ可然哉、果シテ然ラハ、縣社盜贓ヲ併シテ十圓以上ニ相成、然ルヲ又加等スル時ハ、名例律二罪俱發條例首從ノ贓并發スル時、從贓多キハ併セテ一等ヲ減スル例ニモ矛盾スルニ似タリ、仍テ如此ハ只併贓シテ加等セスシテ可然哉、此段相伺候也。

指令

伺ノ通、併贓シテ加等セス

第八 盜贓估計ノ事 同第十五号飾磨縣伺  
八年一月二十八日指令

盜贓估計

爰ニ竊盜アリ、衣類五十品ヲ盜ミ、不日捕縛ニ付キ、キカ糎ニ及  
テ處、其衣類ハ古着渡世某へ、代金五十二圓ニ賣却セシ旨口  
供ス、因テ買主某ヲ糾問スルニ、賊ノ口供通、衣類五十品代金  
五十二圓ニ買求メタル儀ハ相違無之候へ共、已ニ名前不知  
人ニ代金六拾圓ニ轉賣致ス段申立候ニ付、事主へ衣類ノ品  
位書差出サセ、評價人ヲシテ估計セシムルニ、其價四十八圓  
ナリト云フ、右ハ昨年御省第百十四號日誌滋賀縣伺ノ御指  
令ニ由レハ評價者ノ算計ヲ真贓トナシ、懲役百日相當ノ如  
ク相見候へ共、畢竟評價人ハ現物ヲ檢査シ之ヲ估計スルニ  
非ス、賊ハ現在其品ヲ公商ニ賣却シ、五十二圓ノ現金入手致  
スニ付、乃チ賊ノ賣高ヲ以、懲役一年至當ニテハ有之間敷哉、



前條果レテ評價者ノ算計ヲ真贋ト視ルキハ、盜賊竊主條例  
中情ヲ知テ贋品ヲ故買スル者ハ、坐贋ニ一等ヲ減スト有之  
處、若シ故買者物品ヲ轉賣シテ所有相分ラサル時ハ、賊及ヒ  
事主ノ口共ヲ審明シ、評價人ニ估計ヤシメ、假令估計者ノ算  
定金、賊ノ賣却金高ヨリ十圓乃至二十圓ノ増減有之ト雖モ、  
本犯ハ勿論故買者モ亦、右估計金高ニ依リ罪ヲ定メ可然哉  
但贋物追徴方モ、本文估計高ニテ可然哉相伺候也、

指令

第一條 評價人算計ヲ真贋トナシテ罪ヲ科ス

第二條 本文但書共伺ノ通

第九 甲乙丙騎騙ノ事 同第三十八号足柄裁判所伺  
八年三月十日指令

甲乙丙  
騎騙

茲ニ甲乙丙ノ三人アリ、甲令マ金六十圓ヲ詐欺騎騙セント  
造意ス、其術タルヤ被欺ノ人已ヲ倍センヲ欲シ、己レ恒産  
及ヒ居宅ナキヲ以テ竊ニ乙ニ談シ、其居ヲ借得シ自物ト示  
シ、彼ヲシテ實ト認シメ、術中ニ陥レント謀ル、乙時ニ乘シ其  
詐取スル金ノ内二十圓ヲ借用セント造意シ、容易ク甲ノ原  
謀ヲ容レ、其居ヲ貸與シ、遂ニ甲乙同謀被詐ノ人ヲ乙ノ居ニ  
誘ヒ、恒産アルノ景況ヲ陳シ、機ニ投レテ金談ヲ謀ル、被詐ノ  
人之ヲ實トシ、確然タル加判人アル証書ヲ得ハ、金六十圓ヲ  
貸與セント答フ、茲ニ於テ甲同氣ヲ求メ、曾テ負債督責ヲ受  
ル丙ニ趨テ云フ、今マ金策速成ノ舉アリ、成得セハ、負責返償  
容易ナルヘシ、依テ造意ノ實ヲ陳シ、彼レ望ム所ノ加判ヲ請



フ、丙返金ノ已ニ入ルヲ幸トシ、甲乙ノ謀術ニ同シ、其作ル所ノ連名証書ヘ加判シ、甲ト俱ニ之ヲ携ヘテ被詐人ノ所ニ至リ乙ハ殘テ不至前談ノ如ク金六十圓ヲ借得シ、丙ノ手ニ受ケ退テ甲ニ渡ス、甲全得シ、忽チ乙丙ヲ捨テ逃亡所在ヲ隠ス、罪科茲ニ於テ發露シ、甲在サスト雖モ、乙丙捕ニ就キ口供甘結刑典方ニ定ル、右等ノ如キハ甲逃亡以上ハ前六十圓ノ賍ヲ追スルハ、乙丙ヨリスヘキ哉、或ハ乙ニ至テハ同謀スト雖モ前金始終授受ノ際不在ニ付、一時其手ニ受ル丙ヨリ全追スル者ニ候哉、  
同斷自然即今ノ處、丙ヨリ追シ候得ハ、丙ノ資力賍高ニ不足スル時ハ、同犯乙ヨリ加追候儀ト存候

同斷今後甲捕ニ就ク、罰ハ、處罰ノ上其資力限リテ追シ、賍已レニ全入スルヲ以テ、今追スル、乙或ハ丙ニ下附致ス儀ト存候、右條々相伺候也、  
指令

第一二條 乙丙ヨリ追徴ス、

第三條 伺ノ通、

第拾 荷物詐取ノ事 同第三十九号滋賀縣同 八年三月十二日指令

路上行人ノ荷物、并貸錢迄詐取セントスルノ意念ヨリ、人足稼ノ体ニ詐リ、荷物ヲ搬運セント欺キ、之ヲ受取リ、透ヲ考ヘ逃走スルハ、其寄託ヲ受ルノ後之ヲ盜ムト、少ク其情異ニシテ拐帶ニ似タリト雖モ、如此キ者ハ仍監守盜ヲ以テ論シ

荷物詐取



可然哉、

指令

伺ノ通

第拾壹 拒捕人ヲ傷スルノ事

同第五十一号廣島縣伺  
八年三月三十一日指令

明治七年九月廿七日附ヲ以テ、安藝國出生榮助、竊盜ノ際、事

主ヘ刃傷スル者ニ付、捕亡律罪人拒捕條ニ依リ、絞罪可申付

哉、相伺候處、拒捕シテ事主ヲ刃傷ス、罪人拒捕條、捕吏ヲ毆チ

折傷以上ニ至ル者ニ擬シ、例第二條ニ照シ、懲役終身ト御指

令七年第二百十二号六丁有之候ニ付、同國高宮郡岩上村小

林友吉同様事主ヲ刃傷スル者ニ付、右指令ニ照準シ、例第二

條ニ依リ、懲役終身ノ見込ヲ以テ、相伺候所、竊盜ノ際云々、改

拒捕人  
ヲ傷ス

定律例第二十七條、持兇器強盜人ヲ傷スル者斬罪ト御指令

本年第廿五号六丁各相成リ、同ク竊盜ノ際、事主ニ覺知セラ

處、臨時拒捕刃傷スル者ノ内、榮助ハ兼テ刃物ヲ懷中致シ居

ルヲ以テ、拒捕スルニ付、押テ論スレハ、持兇器ニモ近シ、友吉

ハ兇器ヲ持シテ入ルニアラス、自ラ盜ハ所ノ器ヲ以テ拒捕

スル者ニ付、彼是ノ間、却テ輕重アルニ似タリ、然ルニ彼レハ

生キ、是レハ死シ、前後ノ御指令兩端ニ相違、候様、聊カ危疑ヲ

生候付、處刑見合置、別紙兩罪案之略相添、再應相伺候也、

指令

榮助ハ竊盜ヲ行ハントスルノ際、事主ニ執ヘラレ、振離チ逃

ントスルニ、遁ル、ミチナク、痲負ハスル者ニシテ、畏懼ノ情



有ルカ故ニ、罪人拒捕律ニ依テ擬定ス、友吉ハ既ニ盜ミ得ルノ後、事主ニ組付カレ、疵負ハセ、遂ニ財物ヲ奪ヒ去ル者ニシテ、護贖格闘兇ヲ逞クシ、畏懼ノ意無キカ故ニ、強盜ヲ以テ論ス、其狀相似テ情同シカラス、因テ前議ノ如ク處分スベシ、

第拾貳 贓罪問合セノ事 同第五十九号埼玉裁判所伺 八年四月十五日指令

贓罪

第一條 下文甲號ノ趣、縣官ヨリ為問合來候ニ付、乙號ノ旨答候處、復々丙號ノ趣申來候ニ付、尚下號ノ通田答ニ可及ト存シ候、是ニテ可然哉、

甲號

不知其情不正ノ品ヲ買取、品主見出シ雙方ヨリ訴出候節、未得捕賊内被盜品ト判然致シ候ヘハ、縣廳ヨリ引上ケ現

在ノ品主ヘ給與シ、最モ公商公賈ヨリ買取スル者ハ、正贓現在スト雖モ商價ヨリ其價ヲ償ハシメ、追徴致シ可然哉、

乙號

不正ノ情ヲ不知贓物買取有之ヲ、事主見出シ申訴セシ等ノ件、其賊未タ縛ニ就カス氏、事主アリ贓物判然シテ買者公商賈ニ依ル不依等ヲ論シ、追徴ノ區別等ヲ處置スルハ、專ラ裁判上ニ至テ決斷スヘキ事タルニ付、右ニ關連ノ者共、一同従前ノ通御差廻レノ方可然存候、

丙號

不正品買取一件ハ、既ニ明治五年七月中司法省ヘ東京府同ニ、不知其情不正ノ品ヲ買取品主見出シ、雙方ヨリ訴出



候却、賊既ニ縛ニ就キ居候ハ、於御省御處置可有之ハ勿  
論ニ候ヘ共未得捕賊内被盜品ト判然致シ候ハ、役所ヨ  
リ引揚ケ現在ノ品主ヘ給シ可然哉トアルニ、伺ノ通、但公  
商公賈ヨリ買取スル者ハ、正贓現在スト雖モ、商賈ヨリ其  
價ヲ償ハサレハ、直ニ追徴スルヲ得スト御指令相見、本  
省御指令面トハ聊、矛盾ノ疑ヒ無キ不能、仍テ再應及御問  
合候、至急何分ノ御報被下度候也。

丁號

不知情不正品買取候者處分ノ儀ニ付、再御問合ノ趣致承  
知候、御來書中御引用ノ東京府伺云々ハ、昨明治六年二百  
六號御布告ニテ取消相成候部分ト存候間、仍ホ右扱方ハ

申進候通ニテ可然存候、此段及御再答候也。

第二條 遺失埋藏棄置等ノ諸物品ノ内、盜贓ノ類ニ係ラン  
ト不審ノモノハ、是迄縣官ヨリ受取當所ニテ處分シ來候ヘ  
共、本省日誌本年第四百十九號警視廳兩度伺濟ノ趣ニ照シ、  
其犯者ト共ニ送致シ來ルヲ除ノ外、都テ縣官ノ處分ニ屬シ  
可然哉。

第三條 右日誌第四百十九號警視廳再度伺ノ内、第三條甲  
ヨリ竊取セル物品ヲ、乙ノ家ニ捨置キシ如キハ、賊捕ニ就カ  
サレモ盜レ主明白ナル時ハ、如何處分可致哉ト云御指令ニ、  
盜レ主明白ナリト雖モ、賊捕ニ就クヲ待テ處分スヘントア  
リ、然ル處其物品ニ甲家ノ記號等有之、毫モ紛疑無之モノ、及



ト盜取セラルル、物品ノ内、登時其事主ノ構内、或ハ戸邊ニ投棄アルヲ見認メ、直チニ申訴スル如キハ、物品其事主ノ所有タル判然ナルハ、其盜犯假令未夕緝縛セサルモ、並ニ本主ニ給付シテ可然哉、但本條取扱モ前條ト同ク縣官ニ屬シ可然哉、奉伺候也、

指令

第一條 丁號ノ通及回答可然候事、

第二條 伺ノ通、

第三條 警視廳伺ノ指令ハ再議ニ因テ改正七年第二百十六号八丁以下見合ニ相成候ニ付、本文ノ如キハ伺ノ通處分ス可シ、但書伺ノ通、

準賭博

第拾三 賭博ニ準スル事同第六十号三潞縣伺 三潞縣伺 八年四月十八日指令 日指令人民ノ遊戯射的或ハ圍碁象碁等ニテ、僅ニ五錢十錢ヲ賭レ候者、賭博條ニ依リ、懲役八十日申付候ハ、餘リ苛酷ト存ラレ、右ハ情法ヲ酌量シ、減等ニテモ可致哉、相伺候也、

指令

賭博ノ罪ヲ科シ、酌量減等ハ、裁判官ノ見込ニマカス、

第拾四 盜賊ノ事同第六十五号白川縣伺 八年四月二十八日指令

盜賊

第一條 清律、賊盜律、公取竊取皆為盜條ニ曰、器物錢帛之類、須移徙、已離盜所、方謂之盜、ト有之、器物等ハ入手能ク隱藏ス可キ者ニアラス、故ニ官私ヲ別タズ、盜所ヲ離ル時ハ、得財ヲ以テ論シ候儀ニテ、律例ニ其儀不相見、若シ器物錢帛之類ヲ



盗ム者有之候ハ、官私ヲ別タス清律ノ通り、已ニ盜所ヲ離ル、者ハ、財ヲ得ルヲ以テ論シ、各本律ニ依リ其罪ヲ科シ、若シ盜所ニ在テ未タ財物ヲ得サル者ハ、未得財ヲ以テ論シ可然哉、但盜所ニ在ルトハ、假令ハ一ト間ニ在ル器物ヲ盗ミ、仍其間ニ在テ見咎ラル、モノヲ云フヘキ乎、然レハ若シ之ヲ次ノ間ニ移シ見咎メラル、モノハ、即チ盜所ヲ離ルモノト可申哉、

第二條 前同條ニ曰、珠玉寶貨之類、據入手隱藏、縱在盜所未將行、亦是為盜ト有之、珠玉寶貨等ハ、其物輕微、隨テ藏匿シ易シ、故ニ盜所ニ在リト雖モ既ニ手ニ入ルレハ、即チ之ヲ得財ト為シ候儀ニテ、是亦夕律例ニ其儀不相見、若シ右同犯ノ者

有之候ハ、各本律ニ依リ、已ニ手ニ入レ隱藏スルト否トヲ以テ、得財不得財ヲ區別シ、處分仕候テ可然哉、

第三條 前同條ニ曰、其木石重器、非人力、所勝雖移本處未駄載間、猶未成盜ト有之、右ハ他人已ニ工カヲ用ヒ砍伐シ置ク材木、其他石及ヒ重器等、重大ノ物ニシテ、人力輒々舉動シ難キモノヲ云ヒ、既ニ本處ヲ移スモ、未タ駄載セサル間ハ、仍ホ未得財ヲ以テ論シ候儀ニテ、是亦律例ニ其儀不相見、若シ右同犯者有之候ハ、清律ノ通り區別致シ可然哉、果シテ然ラハ、官私林ノ竹木ヲ盜伐シ、追テ取寄候所存ニテ、其儘闕キ數日ヲ經、仍其場ニ有之内、發覺スル者、其竹木已ニ伐終リ復生ノ理ナシト雖モ、仍ホ各本律ニ依テ論シ可然哉、



第四條 前同條ニ曰、馬牛駝羸之類、須出關圈、鷹犬之類、須專制在己、乃成為盜、ト有之、馬牛等ハ關圈ヨリ牽キ出スヲ須テ得財ト為シ、鷹犬ノ類ハ己ニ羈繫ニ就キ、專制己レニ在ルノ須テ、得財ト為ス儀ニテ、是亦律例ニ其儀不相見、若右同犯ノ者有之候ハ、官私ヲ別タス、清律ノ通り區別致シ可然哉、但右本條ノ頭書ニ曰、若レ馬一匹ヲ盜ル、別馬之ニ隨ハ、固ヨリ偶然ノ事ニテ、之ヲ盜ムニ意アルニアラス、故ニ合算セスト雖モ、其母馬ヲ盜ムニ、其子馬之ニ隨ハ、乃チ必然ノ事故ニ合算シテ罪ヲ論スト有之、是亦清律ノ通り處分致シ可然哉、第五條 鬪毆棍棒等ヲ以テ人ノ肘ヲ毆チ、關節ヲ違ハシムト雖モ、平愈スレハ、仍尋常毆傷ト同ク、懲役四十日ニテ可然

哉、相同候也、

指令

第一條 第二條 但書共同ノ通  
 第三條 前段ハ清律ノ通り、官私山林ノ竹木ヲ盜マント欲シ所伐スル者、未タ馱載セサルハ盜トナサス、棄毀器物ヲ以テ論ス、  
 第四條 但書共同ノ通  
 第五條 折傷ヲ以テ論シ、酌減ス可シ、  
 第五條 駐罪ノ事 同第七十二号滋賀縣同八年五月四日指令  
 第一條 給没駐物條、貸錢多シト雖モ、其本物ノ價ニ過ルヲ得ストアレバ、其盜ミ取ル所、車船等ヲ現ニ他ニ貸渡シ、

駐罪



不正ノ貸錢ヲ得ルノ如キハ、假令其本物ノ價ニ過ルモ、悉皆追徴シテ事主ニ給ス可キ儀ニ候哉、但已ニ費用スルモ資力限り追徴シ可然哉、

第二條 賊車船等ヲ盜ミ、贓物タルヲ押隠他ニ賣却シ、其車船買取者ノ手ニ現在スルトキハ、原物ハ買取者ヨリ追徴シ、其貸錢ハ日數ニ照シ賊ヨリ追徴シ、若シ賊無力ニシテ償フ不能ハサレハ、其貸錢ハ事主ノ損失ト為シ可然哉、但本文買取者他ニ貸渡シ賃錢ヲ得ルトキハ、其賃錢モ亦追徴シ、已ニ費用スルハ追モスシテ可然哉、

指令

第一條 同ノ通、但書費用スレハ、追徴スルコ勿レ、

第二條 本文ノ如キハ、盜取シテ賣却スル者、賃錢ノ追徴ス可キ無し、但書同ノ通、



逃亡

第一號舉家失踪、市司法省日誌第三号長崎裁判所伺八年一月八日指令

舉家失踪

長崎縣下鞠屋町商橋口嘉吉代官人波多野岩吉ヨリ、同紺屋町商那須喜三二舉家失踪ニ付、受人鯨海勇七、係ル家所名前替、儀第一號ノ通訴狀差出候ニ付、取込レ候所、那須喜三二、舉家失踪三十六箇月相立居候間、與書ノ上訴狀下渡レ候所、席前原被熟談ノ上、第二號ノ通日延答書差出候末、右失踪人喜三二家屋敷ハ同人ヨリ明治二年巳七月田中辰三郎ハ、錢千四百四十五貫文借用ノ引當ニ書入相成居、右証書中受人鯨海勇七ト有之ハ、全ク喜三二ノ取持ト相見、其人名無之、然共本人喜三二ノ印形、并、與書掛リ乙名森田喜兵衛等ノ



印形ハ、實印ニ相違無之旨、第三號ノ通副區長木下復七郎ヨリ書面差出候ニ付、篤ト取調候處、右那須喜三二家屋敷ハ、同人娘那須屋ヤハノ名前ニテ所持罷在、己巳年八月喜三二ヨリ橋口嘉吉ハ賣渡、其以來嘉吉所有ニ相成居候ハ、共、雙方ヨリ戸長ハ届無之、喜三二ハ同年十一月舉家失踪ニ付、庚午正月中戸長ヨリ長崎縣ハ相届、同年五月帳外相成、其後地券狀ハ那須屋ヤハ名前ニテ相渡リ、今ニ戸長ニテ預リ居、地租ノ儀ハヤハ名前ニテ其實橋口嘉吉差出居候趣等、第四號ノ通副戸長ヨリ書面差出シ、就テハ令般ノ原告人橋口嘉吉ハ、地所家作共、那須喜三二失踪前買請タル事証書ニテ明了ナリト雖モ、其節戸長ハ問合ノ手數モナク、相届儀モ無之ヨリ、

遂ニ今日迄モ切替不相成候、乍然喜三二一家ハ、庚午ノ五月既ニ帳外ニ相成候ニ付、其節縣廳ニ於テ、右地所家作共、處分可有ノ處、其儀無之、加之、橋口嘉吉ヨリ、帳外人ヤハノ名前ヲ以テ相納候地租ヲ、其儘戸長ニテ受取居、旁不都合ノ至、依テ本家作地所ノ儀、田中辰三郎ハ橋口嘉吉ヨリ二ヶ月前、己巳七月貸金ノ引當ニ取り、戸長ノ與印モ有之ト雖モ、同年九月橋口嘉吉買入、親類鯨海勇七ノ請印モ有之、今日迄モ地租相納居候上ハ、右麴屋町八十八番地所家作トモ、橋口嘉吉ハ相渡田中辰三郎ハ、追々本人見當リ次第可訴出旨証書ハ裏書ノ上、相渡ニ可申筋ニ可有之乎、失踪人ノ地所家作ニ付、入札拂ノ儀、六十日間及揭示候末、本文ノ如ク及處分可申乎、決<sub>キ</sub>兼



此段相伺候也

指令

橋口嘉吉儀喜三二ヨリ家屋敷買請タルハ、田中辰三郎ヨリ  
二ヶ月ノ後ニ之ヲリト雖モ、同人ハ右家屋敷引當ニ書入  
ル迄ニ付、家屋敷ハ嘉吉へ引渡サセ可申、且田中辰三郎ハ未  
出訴致シタル事トモ不相聞間、証書へ裏書等ニハ及ハサル  
事

第貳 捕獲人逃亡ニ係ルノ事

同第四十九号濱田縣伺  
八年三月二十八日指令

警察上ニ於テ風体不審ノ者見當リ推問候ニ、私擅他管ニ出  
又ハ本籍逃亡ノ者ニ係リ、本籍ニ復歸スル道程ノ日數ヲ加  
ヘ、五十日又ハ二年以前ニ及フ者ハ、先ツ拘留致シ置本管廳

捕獲人逃  
亡ニ係ル

ハ掛合ノ上郵送ヲ以可引渡哉、或ハ未夕日數年數ニ滿夕サ  
ル中ニテモ、律ニ依リ處斷シ可然哉相伺候也

指令

本籍ニ復歸スル道程ノ日數ヲ除キ、五十日ニ滿サル者ハ、説  
諭ヲ加ヘ本籍ニ復歸セシム、推問ノ日已ニ五十日及ヒ滿二  
年ヲ過ル者ハ、該地ニ於テ律ニ依ラ處分シ、處刑濟ノ上、親屬  
朋友等ノ引受人之アラハ、其者ハ引渡シ引受人無之時ハ、本  
管廳へ郵送ス可シ



遺失

官ニ告又  
給付

第壹

官ニ告ケス遺失物給付ノ事

司法省日誌第三号島根縣伺  
八年一月九日指令

道路ニ於テ遺失物ヲ拾ヒ得テ之ヲ聞スルニ住所姓名判然  
其親族知音ニ係ルヲ以テ官ニ告ケス私擅ニ本主ニ給付シ  
或ハ一面識無之他人ノ遺失ナルモ其住所姓名判然タルヲ  
以テ一種ノ篤實懇切上ヨリ同前取計ヲモノハ都テ不問ニ  
置クヘキカ又ハ親族他人ノ間區別ヲ立假令知人タリ氏親  
族ヲ除クノ外ハ官ノ指揮ヲ經サルヲ責メ拾得モノ遺失モ  
ノ共違式ノ輕キニ問ヒ聽贖シ遺失品ハ折半法ヲ用ヒ不  
テ可然哉相伺候也

指令



親族或ハ姓名判然タルニ因リ懇切ヲ以テ取計ト事ニ於テ  
害ナキ者ハ不問ニ措クヘシ、

**第貳 税居中賍物ヲ見出ス事**

同第三十一号警視廳伺  
八年二月二十八日指令

某甲ノ家ヲ乙某税居ス、乙某曾テ不審ノ所業アルヲ以テ巡  
査屯所ヨリ喚出ス處、該家ヲ逃亡シ、遂ニ數日ヲ經、他所ニ於  
テ縊死ス、故ニ乙某ノ家人ハ、他ニ轉移シ、丙某之ニ住居ス、然  
ル處該家中ニ、筵包ノ衣類若干有之、趣訴出タリ、之ヲ檢スル  
ニ、丁某ノ被盜品タルヲ分明ス、就テハ乙某曾テ盜取隱置ク  
所ナラント推知ス、右處分ノ儀ハ、明治七年六月規第五百七  
號同濟遺失物取扱規則抜抄別紙第四條 七年第四百四十九号  
二百十六号八丁以下、同條ニヨレハ、明家橋梁積材木等ノ間  
遺失物伺ノ部見合ス可シ、

賍物ヲ  
見出ス

ニ隱置ク品ニテ、盜賊ニ疑シキ者ハ、事主ニ還付スヘキト有  
之候ハ、改定律例第二百八十三條遺失物ヲ得ルニ、物品盜  
賊ニ係ル云々明條ニヨレハ、其品賊賊ニ係ルト雖モ、折半致  
給與候方、至當ト致思量候、此段相伺候也、

**指令**

伺、通、

**第三 實印代押ノ事**

同第四十七号山形縣伺  
八年三月二十七日指令

實印ヲ他人ヘ貸渡候儀ハ、嚴禁ニ有之候所、本人病氣等ノ故  
障有之、子弟ヲ以テ區戸長ノ役場ニ至リ、我實印ヲ代押セシ  
ムル者及ヒ、代押スル者如何處分可致哉、奉伺候也、

**指令**

實印代押



換易ノ  
贓物

本文ノ如キハ罪ノ論不可キナシ、  
**第四** 換易ノ贓物ノ事 同第五十四号警視廳令  
八年四月七日指令

明治七年六月規第五百七號遺失物取扱規則數條伺濟ノ内  
七年第四百四十九号十三丁見合ハ別紙之略 抜抄第二條、盜賊竊取去リシ跡ニ捨  
置ク物品ト、第三條混堂、或ハ客塵等ニ於テ他客ノ物品ト換  
ヘ、跡ニ殘シ置物品トハ、稍同一ノ物ニシテ、處分上大ニ區別  
有之、其權衡相均シカラサルニ似タリ、且混堂客塵ノ換品ハ、  
概スルニ皆盜賊ノ所業ニ係ルモノナレハ、該賊捕ニ就ク迄  
ハ、第二條盜賊ノ置品ト同レク、一箇年間警視出張所ニ留メ  
置キ、探索ノ用ニ供シ、尚蹤跡ヲ得サレハ官沒致候様相成度  
相伺候也、

郵便物

指令

他客ノ物品ト換易シテ、殘シ置ク物品ハ、第二條ノ通處置ス  
可シ、市店ノ物品ヲ買ト詐欺云々ハ、是迄ノ通取計ノ可シ、

**第五** 郵便物ノ事 同第五十六号三重縣令  
八年四月十二日指令

御省日誌中、罰則ト常律ト並犯シ、及ヒ一ノ罰則ト、他ノ罰則  
ト並犯スル者ノ如キ、右イツレモ二罪俱發律ヲ用ヒス、各別  
ニ處分スヘキ旨溢視致シ候、然ニ郵便罰則第七條中、書留郵  
便物ヲ遺失云々、其官書官物ニ係ル者ハ、從重處斷ス云々、又  
鳥獸獵罰則第十八條、此ノ諸規則ヲ犯スニ、詐偽脇追ノ舉動  
アル者ハ、本律ニ依リ從重科斷ストアリ、其重キトハ抑モ何  
等ニ對シテ指ス者乎、了解難致候間、此段相伺候也、



指令

郵便罰則第七條、官ニ係ル信書郵便物ノ遺失ハ尋常ノ信書  
等遺失ノ罰ニ比較スレハ、輕重アルニ付、本條罰金範圍中ノ  
重キニ從ツテ處分ス可シ、舊鳥獸獵規則第十八條ハ、其詐  
偽脅迫ノ情狀ニ因リ、本律ニ該ルモノハ、規則ヲ犯スト輕重  
アルニ付、其本律ノ重キニ從ツテ、科斷ス可シ、

聽訟指令續篇卷二終



